

2 令和3年度事業の実績

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 地域学校協働活動の促進
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 家庭教育支援の充実
- オ 青少年の体験活動の充実

県生涯学習課

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業 1,649千円

〔事業目的及び概要〕

様々な立場から社会教育活動を支援していく人財を育成し、地域の活性化を図るため、市町村の社会教育主事等の資質・能力向上を図り、首長部局、企業、NPO団体、地域づくり団体等の地域ネットワークを活用した事業の企画・実践を支援するとともに、地元企業等と学校のネットワーク会議等を実施する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 社会教育主事の資質・能力向上と地域課題の解決【2地区 主管：関係教育事務所】

社会教育主事等が中心となり、首長部局、NPO団体、地域づくり団体等とともに、多面的な視点で、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践した。

ア 西北地区(五所川原市)

<地域課題解決スタートアップ研修会>

○期日：8/10(火) ○会場：五所川原市中央公民館(五所川原市) ○参加者数：25名

○内容：事業説明、ワークショップ形式による協議

<第1回実行委員会>

○書面開催 ○参加者数：18名

○内容：イベント内容の募集

<第2回実行委員会>

○期日：11/22(月) ○会場：五所川原市中央公民館(五所川原市) ○参加者数：15名

○内容：イベント内容決定、役割分担、タイムスケジュール等イベント当日の詳細について

<第3回実行委員会>

○期日：12/10(金) ○会場：五所川原市中央公民館(五所川原市) ○参加者数：15名

○内容：実施内容及び、タイムスケジュールの確認、担当コーナーの準備

<事業の実践>

クリスマスイベント「楽しんじゃおう！ちょっと早いクリスマス」開催

○期日：12/19(日) ○会場：五所川原市中央公民館(五所川原市) ○参加者数約170名

○内容：クリスマスリース・クリスマスオーナメントボール製作、ぬり絵、ストラックアウト
フリスビー、段ボール迷路、イルミネーション点灯式

<地域課題解決フォローアップ研修会>

○2/17(木)に五所川原市中央公民館で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため紙面で開催。

○内容：西北地区実行委員会による実践発表

イ 上北地区(七戸町)

<地域課題解決スタートアップ研修会>

○期日：6/22(火) ○会場：七戸町役場七戸庁舎(七戸町) ○参加者数12名

<第1回実行委員会>

○期日：8/10(火) ○会場：七戸町役場七戸庁舎(七戸町) ○参加者数8名

○内容：創造の森活用事業作業内容と分担について

<第2回実行委員会>

○期日：8/27(金) ○会場：七戸町役場七戸庁舎(七戸町) ○参加者数9名

○内容：新型コロナウイルス感染症感染拡大防止による事業延期日時について

<第3回実行委員会>

○期日：9/27(月) ○会場：七戸町役場七戸庁舎(七戸町) ○参加者数：9名

○内容：事業延期日時と分担についての確認

<第4回実行委員会>

○期日：11/29(月) ○会場：七戸町役場七戸庁舎(七戸町) ○参加者数：9名

○内容：第1回創造の森活用事業の成果と課題について(第2回創造の森活用事業に向けて・フォローアップ研修会に向けて)

<事業の実践1>

○期日：8/11(水) ○会場：東八甲田家族旅行村「創造の森」○参加者数：9名

○内容：イベント開催に当たっての危険箇所の確認と、救急セット、AED等の安全確認

<事業の実践2>

○期日：10/22(金) ○会場：東八甲田家族旅行村「創造の森」○参加者数：9名

○内容：イベント開催の事前準備と進行確認

<事業の実践3>

「第1回創造の森活用事業」の開催

○期日：10/24(日) ○会場：東八甲田家族旅行村「創造の森」○参加者数：27名

○内容：「創造の森」自然観察会、環境整備とSDGsとの関わりについての勉強会、環境整備作業

<地域課題解決フォローアップ研修会>

○2/9(水)に七戸町柏葉館で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンデマンドで開催。

○期日：2/14(月)～2/28(月) ○視聴方法：YouTubeによるオンデマンド開催

○内容：創造の森活用事業実行委員会による実践発表(20分)

(2) キャリア教育の推進【6地区 青森県教育支援プラットフォーム各地区実行委員会への事業委託】

ア 地元企業と学校のネットワーク会議の開催

○内容：学校、企業、教育支援プラットフォーム、地域学校協働本部等の関係者同士がお互いに「顔の見える関係」を築き、地域の未来を担う人材像を共有するため、各地区において会議を開催し、学校が求める支援の内容や企業ができる支援内容をマッチングすることを目的に、関係者同士による意見・情報交換を行った。

※東青、上北、三八地区は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止。

<西北地区>

○日時：7/5(月)、7/8(木) ○場所：板柳町多目的ホール「あぶる」、板柳中学校

○内容：板柳町内小学校6年生を対象に企業によるワークショップを実施

板柳町内中学校1年生を対象に現役高校生によるパネルディスカッションを実施

<中南地区>

○日時：8/27(金) ○場所：弘前プラザホテル

○内容：講演 ○講師：有限会社二唐刃物鍛造所 代表取締役 吉澤 俊寿

<下北地区>

○日時：7/8(木)○場所：むつグリーンホテル

○内容：講演 ○講師：障害者就業・生活支援センターしもきた 所長 三浦 和之

イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録及び登録企業の周知

各関係機関と連携して情報収集しながら、新たに「我が社は学校教育サポーター」に登録する企業を新規開拓した。また、「我が社は学校教育サポーター」に登録されている企業について、さらなる活用をしていただくために、登録企業の周知を学校等に対して行い、企業による教育支援活動の一層の充実を図った。

・我が社は学校教育サポーター 新規登録企業 13(登録予定含む)

ウ 教育支援活動展示会の開催

企業による教育支援活動を県民に広く周知することを目的とした「教育支援活動展示会」を実施した。

※中南、三八地区は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止。

<東青地区>

○日時：11/3(水)～11/5(金) ○場所：アウガ1階駅前スクエア

○内容：東青地区13企業の活動をパネルで展示

<西北地区>

○日時：11/1(月)～11/12(金) ○場所：五所川原市役所 土間ホール

○内容：西北地区5社の活動をパネルで展示

<上北地区>

○日時：12/23(木)～12/27(月) ○場所：三沢市立古間木小学校玄関ホール

○内容：上北地区7社の活動をパネル展示

※展示期間中に、古間木小学校で小学校教育研究部会を開催

※三沢市立図書館では、通年で企業紹介(定期的に入れ替え)のパネルを展示

<下北地区>

○日時：7/19(月)～24(土) ○場所：むつ来さまい館 イベントホールA

○内容：下北地区13社の活動を展示

【成果と課題】

「社会教育主事の資質・能力向上と地域課題の解決」では、各地区実行委員会の社会教育主事等が多様な人材とともに、地域課題の解決や地域の活性化を図るための事業を企画・実践した。

西北地区では、子育て中の保護者を対象に、子育てについての学習会や交流会等を開催することにより、子育てに対する保護者の精神的負担を軽減し、地域課題を解決することを目的に本事業を企画実践した。五所川原市中央公民館を会場に「楽しんじゃおう！ちょっと早いクリスマス」をテーマとしたイベントを開催し、参加者は、ボランティアのアドバイスを受けながら親子で楽しくクリスマスリースを制作したり、実行委員で制作した段ボール迷路で遊んだり、約170名の参加者が親子同士楽しみながら交流を深めることができた。

上北地区では、「活気・にぎわいのある町」にするためのきっかけとなる事業として、山野草が自生する東八甲田家族旅行村の「創造の森」にてミズバショウや冬ワラビなど貴重な植物や豊かな自然について観察しながら学ぶイベントを企画・実践した。また、散策したコースの中で、池に溜まった落ち葉やゴミ等によって観察しづらい場所の清掃活動を参加者全員で行った。その結果、清掃前より植物や水辺に住む昆虫等が観察しやすくなり、活動した一般参加者も清掃後の景観の美しさに満足していた。

今後も、多様な人材及び他部局(まちづくり担当部局等)や他市町村と連携しながら、地域活性化や地域の課題等を解決するための事業を企画・実践し、社会教育主事の資質向上を図るとともに、持続的な組織運営に向けた支援を続けることが重要である。また、取組成果を域内の市町村へ波及させるため、各実行委員会の活動をモデルとして、各市町村教育委員会等へ情報提供する必要がある。

「キャリア教育の推進」では、地元企業と学校のネットワーク会議及び教育支援活動展示会において、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催できない実行委員会があった。

地元企業と学校のネットワーク会議では、中南・下北地区においては、青森県高等学校長協会及び青森県若年者就職支援センター(ジョブカフェあおもり)主催の会議と併催する形で実施し、教員の研修等の機会と同日・同会場で開催することにより、多くの教員に対して本事業の取組を理解してもらう機会となった。また、教育支援活動展示会では、企業が実施している教育支援活動の具体的な取組を多くの県民に紹介することができた。

来年度も6地区実行委員会に委託して事業を実施するが、オンラインの活用や代替の事業実施等を取り入れて、コロナ禍でも事業が実施できるよう各地区実行委員会と連携して進めていく必要がある。

子どもの読書活動推進事業 2,184千円

【事業目的及び概要】

「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をする子どもたちを育成するため、子どもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及・啓発を進める取組を展開する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を

対象に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品集(紹介文集)を71,500部、優秀作品周知ポスターを410部作成し、中学校、高等学校(特別支援学校中等部及び高等部を含む)、図書館等に配付した。

○募集期間：7/1(木)～9/17(金)

○応募数：4,523点(中学生の部：36校1,036点、高校生の部：31校3,487点)

○優秀作品受賞者一覧

<中学生の部>

最優秀賞	青森市立筒井中学校2年 平間 音羽 「人生に、上下も勝ち負けありません 精神科医が教える老子の言葉」 (野村 総一郎/著)
優秀賞	青森市立南中学校3年 福士 舞 「レインツリーの国」(有川 浩/著) 青森市立南中学校3年 田村 望桜 「ライオンのおやつ」(小川 糸/著) むつ市立田名部中学校3年 中美 姫咲 「+1cm(プラスイッセンチ) たった1cmの差があなたの世界をがらりと変える」 (キム・ウンジュ/著 ヤン・ヒョンジョン/イラスト 築田 順子/訳) むつ市立田名部中学校3年 宮本 藍瑠 「きみの友だち」(重松 清/著) 八戸聖ウルスラ学院中学校3年 関野 天音 「青の数学」(王城 夕紀/著)

<高校生の部>

最優秀賞	県立青森工業高等学校1年 猪股 玲奈 「星やどりの声」 (朝井 リョウ/著)
優秀賞	県立青森東高等学校2年 山田 愛菜 「夏の庭 The Friends」(湯本 香樹実/著) 県立青森豊学校 高等部3年 三上 真輝 「レインツリーの国」(有川 浩/著) 県立五所川原工科高等学校1年 平沢 さなえ 「海に見える理髪店」(荻原 浩/著) 県立八戸商業高等学校1年 高畑 友希 「か」「く」「し」「ご」と「」(住野 よる/著) 向陵高等学校3年 栗橋 美妃 「今こそ栄光への架け橋を それでもオリンピックは素晴らしい！」 (刈屋 富士雄/著)

(2) 子どもの読書活動推進大会

広く県民が子どもの自主的な読書活動の意義や重要性について理解と関心を深め、家庭・地域・学校を通じた社会全体で子どもの読書活動を推進する機運の醸成を図るため、子どもの読書活動推進大会を開催した。

○日時：12/12(日) 13:00～16:00

○場所：つがる市生涯学習交流センター松の館

○参加者数：180名

○内容

ア 表彰式

令和3年度あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』コンクール
表彰式

イ 私のお薦めの一冊

ウ 講演

演題『大好きな本の話 ～みなさんの質問にも答えます～』

講師 小説家 朝井 リョウ

聞き手 フリーアナウンサー 境 香織

(3) 青森県子ども読書活動推進計画

「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」に基づき、読書に親しみ、自主的に読書活動をする子どもたちを育てるため、各教育事務所の協力の下、子どもの読書活動推進計画の未策定市町村を訪問

し、計画策定が進むように情報提供及び意見交換を行った。

また、学校における読書活動推進を支援するため、子ども同士が図書を紹介し、様々な分野の図書に触れる活動等に関する具体的な取組を紹介するリーフレットを作成し、学校及び関係機関等に配付した。

[成果と課題]

「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」は、応募する学校で校内審査を行い、出品点数を各校 30 点以内とした。学校の担当教師からは「同年代に向けて自分の読んだ本を推薦する、という趣旨は目的・対象が明確であるために取り組みやすいだけでなく、客観的な評価をしやすいため、よりよい文章にしようという意識も生まれやすい。」との感想をいただいた。優秀作品集については、中学生・高校生の読書意欲向上につなげるため、今後もあらゆる機会を通して広く周知する必要がある。

子どもの読書活動推進大会では、小説家による講演の他に「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」コンクールの表彰式と最優秀賞及び優秀賞を受賞した生徒による本の紹介を行い、子どもの読書活動推進に係る関係者に本事業の一環である取組を周知した。

子どもの読書活動推進計画については、未策定市町村を訪問し、情報提供及び意見交換を行い、未策定市町村が抱える課題などを知ることができた。引き続き子供の読書活動の策定に向けて未策定市町村を訪問し、計画策定が進むように情報提供及び意見交換を行う。

今後も作成したリーフレット等を活用し「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」で示している本県の課題(不読率の改善等)に対応した取組を進めていく必要がある。

いじめ防止キャンペーン推進事業 7,441 千円

[事業目的及び概要]

いじめ問題への理解と認識を深めるため、いじめ防止を内容とした標語を募集し、その優秀賞作品をテレビを通じて視聴者へ語りかけることにより、広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を行う事業である。

[事業内容及び結果]

(1) いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民から、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀賞 6 作品、審査員特別賞 3 作品を選定、表彰した。

○募集期間：6/7(月)～8/31(火)

○応募数：7,496 作品(小学校 4,349 作品、中学校 2,339 作品、高等学校 696 作品、特別支援学校 112 作品)

○受賞作品

優秀賞	なくそういじめ みんな世界で オンリーワン	県立青森第一高等養護学校 1年 川原田 祥央
	“キラリ”より 友だち“キラリ” みつけよう	五所川原市立東峰小学校 2年 山田 めと
	強さとは 人を守れる 思いやり	弘前市立岩木小学校 3年 三浦 愛莉
	あいことば 気付く・寄り添う 声かける	十和田市立第一中学校 2年 野月 悠生
	「たすけてよ」 心の声に 耳すませ	むつ市立奥内小学校 3年 工藤 零士
	画面から とび出す言葉 胸をさす	南部町立名川中学校 1年 松本 佳恋
審査員特別賞	耐えないで あなたは絶対 一人じゃない	青森市立筒井中学校 3年 角田 しずく
	こわいよね されてるあの子は もっとこわい	県立鶴田高等学校 2年 一戸 絵莉那
	SNS 見えないいじめは すぐそこに	十和田市立切田中学校 3年 原 音々

(2) テレビCMの制作・放送

ア 令和2年度制作「いじめ防止キャンペーンテレビCM」を県内民放3局で放送(4/6～4/7、5/6～

5/7、5/10、8/24～8/27、8/30～9/3、1/13～1/14、1/17～1/19)

イ 令和3年度いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用したテレビCMを制作し、県内民放3局で放送(3/23～3/25)

[成果と課題]

いじめ防止標語コンクールでは学校から多数の応募があり各学校において応募した標語を教育活動等にも活用していることから、学校におけるいじめ防止に向けた意識啓発につながる取組となっている。また、CM放送では、取組を周知することにより、いじめ防止に向けた県民の意識の高揚につながる事ができた。

今後も、標語コンクールを実施し、優秀賞作品を原案としてメッセージ性の高いCMを制作することで、子どもたちをはじめ広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を図っていく。

特別支援学校における家庭教育支援事業 683千円

[事業目的及び概要]

障害のある児童生徒の保護者等が、子どもの健やかな成長のために、障害のある児童生徒の心理や行動について理解を深め、家庭における教育や卒業後の就労などについて必要な知識を習得するとともに、同じ悩みを持つ保護者同士の交流や地域住民との交流を深める機会を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
青森第一養護学校	3	7	29名	パン作り教室、ボッチャ体験、講話(身体について)
青森第二養護学校	3	8	18名	こぎん刺し教室、果物狩り、先輩保護者との談話会
青森若葉養護学校	2	4	23名	施設見学、フラワーアレンジ
青森第一高等養護学校	1	1	5名	福祉に関する勉強会
県立盲学校	6	16	81名	運動会参加、進路指導講話、学校祭参加、点字ブロック理解啓発活動、租税教育研修会
青森豊学校	3	5.5	50名	花壇整備、家族レクリエーション、太極拳教室
浪岡養護学校	3	5	41名	マスクスプレー作り、陶芸体験
弘前第一養護学校	1	2	28名	P T A進路研修会
弘前第二養護学校	1	1		クリスマスプレゼント贈呈
弘前豊学校	5	8	61名	親子レクリエーション、なかまの集い、進路懇話会、ワックスバー作り
八戸第二養護学校	3	5	33名	茶話会、エコクラフト教室
八戸盲学校	4	13	22名	保護者交流会、親子学習会、進路学習会、親子体験学習(もの作り、伝承文化活動)
八戸豊学校	2	3	25名	P T A奉仕作業(清掃)
森田養護学校	3	10	42名	父母学習会、学校祭記念品の準備、学校祭舞台発表参観
黒石養護学校	3	5	16名	医療機関の情報交換、消しゴムハンコ作り、コサージュ作り
七戸養護学校	2	4	50名	福祉施設説明会、性教育研修会
むつ養護学校	4	13	109名	園芸教室、親子芸術鑑賞会、父母学習会(進路について)
八戸高等支援学校	2	6	60名	進路学習会、保護者研修会
合計	延べ回数 50回 延べ時間 116.5時間 参加者数合計 693名			

[成果と課題]

同じ立場の保護者同士が、家庭教育学級の様々な活動を通して交流を深め、情報共有や情報交換をする機会となっている。また、子どもの進路や就労、卒業までに身につけさせておきたい力などについて、先輩の保護者のアドバイスを受け、学べる好機となっている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、計画どおりに事業を実施できない学校が多かった。今後は、実施方法について各学校と相談・確認しながら、事業を実施できるように進めていく必要がある。

学校を核とした地域づくり推進事業 3,298 千円

〔事業目的及び概要〕

地域学校協働本部の設置をこれまで以上に推進するために、多様な形態による地域学校協働本部のモデルを設置し、地域学校協働本部の普及を図るとともに、地域学校協働活動の理解及び更なる啓発を進める事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 地域学校協働本部構築モデル事業(県内4市町村)

県内で設置例がない形態、または事例が限られている形態の地域学校協働本部のモデルを構築し、これまでの学校支援活動にとどまらず、学校が地域の核となり、地域学校協働本部が地域との連携・協働を進めながら、地域課題の解決に取り組む活動を行う。

※モデル市町村：むつ市、黒石市、鶴田町、風間浦村

市町村	地域学校協働本部構築モデルの状況
むつ市	○地域学校協働本部設置要綱等 ・むつ市地域学校協働本部設置要綱 ○本部数 ・1本部(4小学校をカバー) ○本部の特徴 ・本部は、放課後子ども教室を実施している小学校を中心にカバーしている。
黒石市	○地域学校協働本部設置要綱等 ・黒石市地域学校協働本部設置要綱(作成中) ○本部数 ・4本部を予定(4小学校をカバー) ○本部の特徴(予定) ・以前から各公民館や地区協議会が中心となり、多様な協働活動を行ってきた。本部は公民館に整備することを想定している。
鶴田町	○地域学校協働本部設置要綱等 ・鶴田町地域学校協働活動推進員設置要綱 ・鶴田町地域学校協働本部設置要綱 ○本部数 ・1本部(1小学校をカバー) ○本部の特徴 ・推進員は町の会計年度任用職員として小学校に常駐している。
風間浦村	○地域学校協働本部設置要綱等 ・風間浦村地域学校協働本部設置要綱 ・風間浦村地域学校協働活動推進員に係る設置要領 ○本部数 ・1本部(1小学校、1中学校をカバー) ○本部の特徴 ・村に1つの本部を整備し、小学校と中学校をカバーしている。

(2) 地域と学校のコラボレーション研修【主管：各教育事務所】

地域学校協働活動に係る知識と理解を深めるとともに、地域と学校をつなぐために必要なコーディネート力の在り方及び学校・地域双方に求められる役割について学ぶための研修会を行った。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	11/16(火)	県総合社会教育センター	44名(0名)
西北	12/ 1(水)	五所川原市中央公民館	62名(0名)
中南	11/30(火)	県武道館	32名(2名)
上北	11/ 8(月)	公立小川原湖青年の家	48名(1名)
下北	12/ 7(火)	むつ来さまい館	35名(0名)
三八	11/17(水)	八戸市水産会館	61名(0名)

※参加者数の()は、オンラインによる参加者数(内数)

○講師

東青・下北・三八地区 NPO法人スクールアドバイスネットワーク 事務局長 井上 尚子
西北・中南・上北地区 一般社団法人みたかSCサポートネット 代表理事 四柳 千夏子

(3) 地域との連携を担う教職員研修【主管：生涯学習課】

地域との連携・協働の必要性や地域連携を担う教員としての校内での役割、留意点について研修を行った。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	8/ 4(水)	県総合社会教育センター	79名(5名)
西北	8/31(火)	(オンライン開催)	32名(32名)
中南	7/ 2(金)	弘前市中央公民館相馬館長慶閣	65名(10名)
上北	7/27(火)	公立小川原湖青年の家	62名(1名)
下北	7/ 6(火)	むつ来さまい館	22名(0名)
三八	7/ 1(木)	南部町総合保健福祉センターゆとりあ	82名(8名)

※参加者数の()は、オンラインによる参加者数(内数)

○講師

東青地区 福島県本宮市立本宮まゆみ小学校 校長 安齋 宏之
 西北・中南・三八地区 岩手県大槌町教育委員会 教育専門官 菅野 祐太
 上北・下北地区 秋田県能代市立二ツ井小学校 校長 佐藤 潔

(4) 本部未設置市町村に対する設置サポート事業

オンライン会議システムを活用し、地域学校協働本部未設置市町村を対象に、本部整備までの手順についてのアドバイス、県内外の先進事例の紹介、地域学校協働本部設置要綱等の情報提供を行った。

【成果と課題】

地域学校協働本部構築モデル事業では、県内で設置例がない形態、または事例が限られている形態の地域学校協働本部の設置及び円滑な運営に向け、モデルとなる4市町村に対し地域学校協働本部の設置や運営上の課題解決に向けた指導・助言を行った。また、モデル市町村以外についても、本部未設置市町村に対する設置サポート事業等を通じて、地域学校協働本部設置に関する指導・助言を行い、本部設置の推進を図ることができた。

地域学校協働活動及び地域学校協働本部設置を推進するための研修会は、県内6地区において2つの研修会を開催し、「地域と学校のコラボレーション研修」では282名、「地域との連携を担う教職員研修」では342名が参加した。県内6地区それぞれの実態に合わせて、地域と学校をつなぐために必要なコーディネートの方や学校・地域双方に求められる役割、地域との連携・協働の必要性や地域連携を担う教員としての役割等について、関係者のスキルアップを図ることができた。

今後は、地域学校協働本部未設置の市町村に対してモデル市町村の実践例を示すなどしながら個別の支援をすること、地域との連携・協働の必要性等について引き続き研修会を実施し教職員等の理解を深めること等により、本部設置について更なる推進を図る。また、感染症対策やオンラインを活用した研修の持ち方など、引き続きコロナ禍における効果的な研修の在り方について検討・工夫をしていく必要がある。

地域学校協働活動推進事業(県事業) 1,786千円

【事業目的及び概要】

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動を継続的・安定的に実施する体制づくりを支援する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 会議の開催

県内における地域学校協働活動の総合的な在り方や、児童の放課後対策の諸問題について協議するとともに、市町村担当者を対象とした連絡会議を実施した。

ア 地域学校協働活動推進委員会

・委員

No.	氏名	所属等	備考
1	深作 拓郎	弘前大学教育学部 講師	委員長
2	越村 康英	弘前大学教育学部 准教授	
3	菊池 信吾	平内町立小湊小学校 校長	
4	山内 亮悦	六戸町立六戸小学校 校長	

5	神田 昌彦	弘前市立新和中学校 校長	
6	山子 泰典	県PTA連合会 会長	
7	渋谷 貴子	鱒ヶ沢町立舞戸小学校 地域学校協働活動推進員	
8	沢田真由美	鶴田町立鶴田小学校 地域学校協働活動推進員	
9	工藤知久子	青森市立浦町中学校区 CSディレクター	
10	村上 直嗣	黒石市教育委員会社会教育課 地域支援係長	
11	高島 慎吾	むつ市教育委員会生涯学習課 主査	
12	橋本 拓也	おいらせ町教育委員会社会教育・体育課 主幹	
13	夏井 幸子	八戸市福祉部子育て支援課 課長	
14	佐藤 文子	西なかよし会 主任放課後児童支援員	
15	新山 大史	上北小学区放課後児童クラブ 主事	

※1/26(水)に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から書面開催とし、各委員から意見をとりまとめた。

イ 放課後子ども総合プラン市町村担当者連絡会議

- ・ 期日：11/12(金)
- ・ 場所：県総合社会教育センター 第1研修室及び第5研修室
- ・ 対象：市町村放課後子ども総合プラン担当者(社会教育主管課及び福祉部局)
- ・ 参加者数：47名

(2) 研修の実施

ア 地域学校協働活動推進のための研修【主管：県総合社会教育センター】

地域学校協働活動の推進に向けて、地域と学校が協働する仕組みづくりに関わる市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員等の資質向上を図った。

- ・ 期日：6/3(木)
- ・ 場所：県総合社会教育センター 第1研修室
- ・ 対象：市町村教育委員会担当者、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等
- ・ 参加者数：41名
- ・ 内容：講義・演習「地域と学校の連携・協働の推進について」
講師 特定非営利活動法人まちと学校のみらい代表理事 竹原 和泉
※会場・オンライン併用による実施

イ 放課後子ども総合プラン指導員等研修会【主管：各教育事務所】

放課後対策等に関わる地域人財を対象に、学習・体験活動等の企画・実施方策、安全管理方策等の資質向上を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催した。

- ・ 回数：10回
- ・ 対象：地域学校協働活動推進員等、協働活動支援員、協働活動サポーター、特別支援・共生社会サポーター、放課後児童支援員等
- ・ 参加者数：計562名

東青	前期	※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催を中止した。
	後期	【開催日】11/29(月)、30(火) 【会場】県総合社会教育センター 【参加者数】94名 【内容】講義「子どもたちの科学する心を育てるものづくり」 ～サイエンス・マジックで遊ぼう～ 青森県発明協会 指導員 Mr. ジサック(伊藤 光藏)

西北	前期	<p>【開催日】6/4(金) 【会場】五所川原市ふるさと交流圏民センター「オルテンシア」 コンサートホール 【参加者数】62名 【内容】講義・演習「危機管理対応のポイント ～生活面、安全対策、緊急時対応等～」 弘前大学大学院教育学研究科 教授 小林 央美</p>
	後期	<p>【開催日】10/6(水) 【会場】柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」 【参加者数】63名 【内容】講義・演習「放課後子ども総合プランの意義と指導員の役割」 弘前大学教育学部 兼 地域創生本部 地域創生人財育成部門 部門員 深作 拓郎</p>
中南	前期	<p>【開催日】7/7(水) 【会場】弘前市中央公民館相馬館長慶閣 【参加者数】37名 【内容】講義・演習「遊びのマスターから学ぼう ～新しい生活様式に配慮した遊び講座」 NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ 代表理事 奈良 陽子</p>
	後期	※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催を中止した。
上北	前期	<p>【開催日】6/15(火) 【会場】公立小川原湖青年の家 【参加者数】50名 【内容】講義・演習「保護者や子どもとつながるためのコミュニケーション」 一般社団法人青森夢創造機構 理事 長尾 慶子</p>
	後期	<p>【開催日】10/8(金) 【会場】六戸町文化ホール 【参加者数】68名 【内容】実技研修・講義「笑顔の魔法で子どもたちにハッピーを ～心に響く風船の魅力～」 AOMORI バルーン集団ねじりんご 澤尻 淳子、豊川 和恵</p>
下北	前期	<p>【開催日】6/15(火) 【会場】下北文化会館 【参加者数】46名 【内容】講義・実習「子どもに起こりやすいけがや事故の未然防止」 日本赤十字社青森県支部事業推進課 課長 山野内 博見</p>
	後期	<p>【開催日】10/20(水) 【会場】むつ市中央公民館 【参加者数】42名 【内容】実技「レッツエンジョイ 自然大好き」 青森県立梵珠少年自然の家 研修課長 新山 隆男 社会教育主事 土岐 正純</p>
三八	前期	<p>【開催日】6/8(火) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】53名 【内容】講義「こどもを守るために大人ができること ～突発的な出来事に正しく対応するために～」 日本赤十字社青森県支部事業推進課 課長 山野内 博見</p>
	後期	<p>【開催日】10/12(火) 【参加者数】47名 【内容】講義「子どもたちと向き合ううえで大切にしてほしい視点と設定」 社会福祉法人 豊寿会 青森県発達障害者支援センター「Doors」 センター長 分枝 篤史 ※オンライン形式による実施</p>

(3) 地域学校協働活動コーディネーターアドバイザーの配置

県内の地域学校協働活動を推進するため、地域学校協働活動に係るコーディネーターアドバイザーを配置し、市町村教育委員会との連絡調整、地域学校協働活動の理解促進、情報提供等を行った。

【成果と課題】

新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況を考慮し、会議及び研修開催の中止・延期、参加者数の制

限、実施方法の見直し等を余儀なくされたが、研修には年間計 500 名を超える参加があった。

研修の実施にあたっては、感染防止対策を徹底し、様々な工夫を凝らしながら開催された。コロナ禍において学びの機会を求める参加者に向けて、時宜を得たテーマ設定・実施内容とすることにより、参加者アンケートも満足度の高い結果となった。地域学校協働活動推進員や支援員等からのニーズも高く、その資質向上に資する研修として、継続が期待されている。

国の新・放課後子ども総合プランの推進に向け、引き続き健康福祉部と連携しながら、市町村において円滑な取組促進が図られるよう支援していく必要がある。

学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助 42,149 千円

〔事業目的及び概要〕

市町村が実施する地域学校協働活動の推進に要する経費について、県が補助をする事業である。

〔事業内容及び結果〕

地域学校協働活動の取組を行う市町村(中核市の青森市及び八戸市を除く)に補助金を交付した。【国庫補助 1/3、県補助 1/3、市町村負担 1/3】

21 市町村、地域学校協働本部 32 本部、放課後子ども教室 65 教室

平内町 今別町 外ヶ浜町 五所川原市 つがる市 鱒ヶ沢町 鶴田町 中泊町 弘前市

平川市 大鰐町 十和田市 三沢市 六戸町 東北町 おいらせ町 むつ市 風間浦村

佐井村 三戸町 五戸町

〔成果と課題〕

地域学校協働本部及び地域の実情に応じた仕組みの下で、地域の方々の参画を得て、多様な活動が開かれている。その中でも、放課後子ども教室は、中核市の青森市及び八戸市、中泊町(一部)、藤崎町、七戸町、横浜町、大間町、新郷村において単独費で実施している教室を含めると 24 市町村 104 教室が開設され、地域の特性を生かしたスポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民との交流等が実施されている。

引き続き、市町村での地域学校協働活動の取組促進が図られるよう、経費の一部を補助し、支援していく必要がある。

あおもり家庭教育支援総合事業 2,594 千円

〔事業目的及び概要〕

社会や家庭を取り巻く状況の変化に伴い、家庭教育が一層困難になっていることを踏まえ、全ての親が安心して家庭教育を行うために、今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するための協議を行い、地域全体で家庭教育を支援していく機運を高めるとともに、親の育ちを応援する学びの機会の充実や支援のネットワークづくり等を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 青森県家庭教育支援推進協議会の開催

今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するため、本県の家庭教育支援事業及び家庭教育学習テキスト「あおもり親楽プログラム 2」の改訂について協議した。

○委員：10 名

○回数：年 3 回

(2) 家庭教育学習テキスト「あおもり親楽プログラム」の作成

家庭教育の学習を推進するため、「あおもり家庭教育アドバイザー」が活用する家庭教育の学習テキストを改訂した。

○「改訂版 あおもり親楽プログラム 2～中・高校生編～」の作成 1,500 部

(3) 家庭を支える連携・協働セミナーの開催

家庭教育支援に携わる方が、予防的・早期対応型の家庭教育支援の体制構築の必要性、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、互いのネットワークを広げる研修会を県内 2 地区で開催し、地域における家庭教育支援の充実を図った。

地区	期日	場所	参加者数	内容
三八	9/14(火)	(オンライン開催)	19名	講演：「なぜいま『連携・協働』なのか？ ～地域ぐるみで家庭教育を支えるために～」 講師：弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎
西北	10/19(火)	五所川原市中央公民館	36名	事例発表：「紹介します、県内家庭教育 支援チームの実践！」 発表者：五戸町家庭教育支援チーム (五戸町家庭教育応援隊) 代表 小宮 香

(4) 青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会の開催

社会全体で家庭教育を支援するため、家庭教育支援に関わる方々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、家庭教育支援関係者等と市町村職員のネットワークを広げた。

○期日：1/7(金)

○場所：県総合社会教育センター

○参加者数：45名

○内容

ア 講義「子どもが生き生きと育つために～『引き算の子育て』のすすめ～」

講師 日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員

名古屋市緑児童館 館長 塚本 岳

イ 演習「子どもが生き生きと育つために、私たちができること」

進行 日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員

名古屋市緑児童館 館長 塚本 岳

(5) あおもり家庭教育応援フェスタの開催

地域が一体となって子どもたちを育むことについて学びを深める講演会、パネルトーク及び様々な家庭教育支援に関する情報提供等を通して、家庭教育についての理解と認識を深め、地域全体で家庭教育を支援する意義や必要性についての普及・啓発を行った。

○期日：11/21(日)

○場所：青森中央学院大学

○参加者数：84名

○内容

ア 講演「子どもを育むために必要なコミュニケーション力」

講師 NPO法人 親子コミュニケーションラボ 代表理事 天野 ひかり

イ パネルトーク「地域ぐるみで家庭教育を支えよう」

パネリスト

NPO法人 子育て応援隊 ココネットあおもり 代表理事 沼田 久美

今別町家庭教育支援コーディネーター 工藤 清子

NPO法人 ファザーリング・ジャパン東北 代表理事 齊藤 望

NPO法人 親子コミュニケーションラボ 代表理事 天野 ひかり

(6) 祖父母向け孫育て研修会の開催

県地域婦人団体連合会への委託により、県内2地区で研修会を開催し、家庭教育をサポートする祖父母を対象として、祖父母だからこそできる孫との関わり方等について学んだ。

地区	期日	場所	参加者数	内容
西北	10/25(月)	五所川原市中央公民館	40名	講演：「今どきの孫育て」 講師：(一社)青森県助産師会 孫育てチーム
東青	11/30(火)	浪岡中央公民館	72名	蛸名 えり子 宮本 由美子

(7) 読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成

県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と、読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内

5 地区で開催し、合計 213 名が受講した。そのうち、「親子ふれあい読書アドバイザー」を新たに 10 名を登録した。(累計登録者数：503 名)

地区	内 容
東青	<p>【期日】 11/21(日) 【会場】 蓬田村ふるさと総合センター 【参加者数】 24 名</p> <p>【内容】 ○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：青森市読書団体連絡協議会 副会長 伊藤 理子</p> <p>○読み聞かせ研修会 講師：青森市読書団体連絡協議会 角田 真知子、中村 弘子</p>
西北	<p>【期日】 11/13(土) 【会場】 中泊町総合文化センター パルナス 【参加者数】 78 名</p> <p>【内容】 ○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：トータルビジョントレーニング協会 代表 千葉 敦子 (親子ふれあい読書アドバイザー)</p> <p>○読み聞かせ研修会 講師：トータルビジョントレーニング協会 代表 千葉 敦子 (親子ふれあい読書アドバイザー)</p>
上北	<p>【期日】 11/3(水) 【会場】 十和田市民文化センター 【参加者数】 45 名 【新規登録者数】 6 名</p> <p>【内容】 ○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：語りの会「こま草」 藤盛 順子 他 4 名</p> <p>○読み聞かせ研修会 講師：絵本専門士 木村 明美</p>
下北	<p>【期日】 12/5(日) 【会場】 むつ市立図書館 【参加者数】 18 名</p> <p>【内容】 ○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：親子ふれあい読書アドバイザー 越膳 昌子</p> <p>○読み聞かせ研修会 講師：親子ふれあい読書アドバイザー 越膳 昌子</p>
三八	<p>【期日】 11/8(月) 【会場】 八戸市立根城公民館 【参加者数】 48 名 【新規登録者数】 4 名</p> <p>【内容】 ○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：青森大学社会学部 教授 秋田 敏博</p> <p>○読み聞かせ研修会 講師：青森大学社会学部 教授 秋田 敏博</p>

※中南地区は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、10/12 の研修会を中止した。

[成果と課題]

家庭教育の今日的課題に対応するため、「あおり親楽プログラム 2 中・高校生編」を改訂し、県内小・中学校及び県立学校等に配付した。また、「あおり親楽プログラム」の活用促進を図るためのリーフレットを作成し、幼稚園、保育所(園)、認定こども園、学校等へ配付した。今後も市町村教育委員会や各学校の P T A 研修会等での活用促進に向けて周知を継続するとともに、「あおり家庭教育アドバイザー」の活用を促す手立てを講じる必要がある。

「あおり家庭教育応援フェスタ」については、家庭教育の重要性等を多くの県民に啓発することができた。実施時期や周知手段、実施方法、会場の選定等を検討しながら、より広く啓発活動を進められるよう工夫する必要がある。

「青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会」では、家庭教育支援関係者の他、行政職員、幼稚園・保育所職員、教員等、家庭教育支援に関わる様々な立場の方が参加し、家庭教育の今日的な課題について研修を深めた。

「家庭を支える連携・協働セミナー」では、今年度は西北・三八地区において、予防的・早期対応型の家庭教育支援の体制構築の必要性等を学習する場を設け、地域における家庭教育支援の充実を図った。今後はセミナー未実施地区においても、関係機関との連携の仕組みづくり等について学習する場を設定し、予防的・早期対応型の家庭教育支援を県域に広げていく必要がある。

県総合社会教育センター

大学生とカタル！キャリア形成サポート事業 778千円

〔事業目的及び概要〕

規定の研修を修了した大学生が自身の体験談や生徒と直接対話するワークショッププログラムを企画・運営し、中学生・高校生には、今と将来の自分について考え、向き合う機会とすることで、互いに自らの夢や目標に向かう主体性が育まれるよう促し、キャリア形成を図る。

〔事業内容及び結果〕

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じてのワークショップ「キャリサポ」(高校企画)、「Jr. キャリサポ」(中学校企画)の実施

中学生及び高校生の意欲を引き出し、自分自身の見つけ直しにつながる、大学生によるワークショップを開催する。

- ア 実施高等学校数 4校
- イ 参加生徒数 高校生 375名
- ウ 延べ参加大学生数 236名

No.	期日	実施校	対象中学生・対象高校生	参加大学生
1	7/ 3(土)	県立鶴田高等学校	2・3学年 (2クラス 38名)	25名
2	11/ 6(土)	県立浪岡高等学校	1学年 (2クラス 31名)	30名
3	11/13(土)	県立弘前南高等学校※オンライン実施	1学年 (6クラス 185名)	49名
4	11/20(木)	県立北斗高等学校	中間年次(11クラス 121名)	38名

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策に伴う中止

県立青森南高等学校、県立黒石高等学校、県立田名部高等学校、県立青森西高等学校、
 県立百石高等学校、県立大間高等学校、県立青森中央高等学校、県立七戸高等学校、
 八戸工業大学第二高等学校、大間町立大間中学校

(2) オンラインワークショップの実施

- ア オンライン企画Ⅰ 9/26(日) 参加大学生 39名
- イ オンライン企画Ⅱ 10/3(日) 参加大学生 38名
- ウ オンライン企画Ⅲ 11/27(土) 参加大学生 17名

※全員がオンラインで参加

(3) キャリア形成の支援

- ア 大学生会議 4回(5/2(日)、7/11(日)、12/12(日)、3/11(金))
- イ 進路指導関係者研修会(7/12(月)) 参加者 18校 19名 (高校生スキルアッププログラムと共催)
 講演 「進化するキャリア教育からつながる進路実現と地方の未来」
 講師 産業能率大学経営学部教授 株式会社Prima Pinguino 代表取締役 藤岡 慎二
- 事例紹介 発表者 県立鶴田高等学校 教諭 瓜田 貴子
 発表者 県立八戸西高等学校 教諭 西塚 洋平

ウ 大学生対象研修会の開催

- 基本研修(計5回 ※オンライン実施1回) 受講者数 155名
- ワークショップ演習(計5回 ※オンライン実施1回) 受講者数 129名
- 中学校対応研修(計5回)) 受講者数 30名
- 応用研修(計3回) 受講者数 18名

〔成果と課題〕

今年度は高等学校4校で新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じながらワークショップを実施した。参加大学生のマスクとフェイスシールドの着用徹底と、密を避けるために体育館を複数使うことやオンライン活用など、新しい生活様式に対応した実施方法を各校に提案し、協力を得ながら実施することができた。また、オンラインワークショップを開催し、大学生の単位取得に関わる対応も大学側と連携を取りながらできた。

今年度もコロナ禍により、学校でのワークショップの機会が激減し、「異年齢集団との直接対話」という最も重要視したい部分ができなかった。そして、度重なるワークショップ中止は大学生の企画参加や目的意識を下げている。大学生対象研修会やワークショップ実施に向けた準備は滞りなく進めること

ができていますので、今後も大学生に企画参加意識を失わずに、中・高校生と大学生のキャリア形成に資する事業にする必要がある。

高校生スキルアッププログラム推進事業 190 千円

〔事業目的及び概要〕

学校外学修への積極的な取組とレポート作成によって、高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とする事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営

(2) 進路指導関係者研修会の実施

「進路指導関係者研修会」の開催(大学生とカタル！キャリア形成サポート事業と共催)

ア 期日：7/12(月)

イ 場所：県総合社会教育センター

ウ 対象：県内高等学校教員及び高校生スキルアッププログラム担当者、参加を希望する高等学校教員

エ 参加者：18校 19名

オ 事業説明・情報交換：県総合社会教育センター職員

(3) 評価サービス

参加校・参加生徒数・奨励証および認定証交付者数

地区	参加校数	参加生徒数	奨励証交付者数	認定証交付者数
東青	7校	532名	19名	21名
西北	3校	313名	2名	0名
中南	2校	59名	0名	1名
上北	3校	14名	0名	2名
下北	2校	663名	0名	0名
三八	6校	1,610名	25名	1名
合計	23校	3,191名	46名	25名

(4) 県民カレッジとの連携

事業連携によるあおもり県民カレッジ新規入学者数 1,494名

〔成果と課題〕

今年度、高校担当教員が行う業務の簡略化を図り、高校生が取り組みやすく分かりやすいものに改良した結果、参加者数及び新規参加校の増加に繋がった。

昨年度に引き続き映像教材視聴の認定単位拡張やオンライン講座等を単位として認定するよう対応したところ、高校生からは好評であった。特に、オンラインによる受講が認められたことで、高校生が今まで受講できないような県内外の講座や興味のある大学教授の講演会等を受講できるようになったことにより学修の範囲が広がった。

今後も、奨励証及び認定証交付者数を増やせるよう、これまで以上に県内全ての高校への情報提供を効果的に行い、未登録校へ周知するとともに、現在活用を休止している学校にも本事業の変更点や活用している生徒の様子について情報提供を行い、参加を促していく必要がある。

青森で生きる未来人財育成事業 686 千円

〔事業目的及び概要〕

高校生・大学生を、地域で行われる子どものための活動に派遣して異年齢交流を図り、青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目指す事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) ボランティアチーム養成講座の実施

異年齢交流実施のため、ボランティアやコミュニケーションについて扱う講座を実施。

	実施日時	内容・講師	受講者数
第一回	6/12(土) 14:00～15:00	「ナナメの関係による異年齢交流」 NPO法人日本人財発掘育成協会 理事長 坂本 徹	44名
第二回	7/11(日) 14:00～15:00	「コミュニケーションについて学ぶ」 青森教育カウンセラー協会 理事 尾崎 洋子	29名
第三回	8/22(日) 14:00～15:00	「実践！レクリエーション」 青森県レクリエーション協会 顧問 塩谷 彰宏	28名

※受講者数は、講義視聴後アンケートを提出した者を指す。

(2) ボランティアチーム員の派遣

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、派遣は行わなかった。

〔成果と課題〕

ボランティアチーム養成講座については、オンライン講座として設定したところ、77名の受講申込みがあった。比較的短い時間での講座であることや、高校生スキルアッププログラムの単位認定講座であったこと等が効果的に働いたためと思われる。アンケートからも、新しい気づきを得たという記述が各回あり、自己肯定感の高まりに寄与したと見受けられる。結果、1回以上受講した人が55名、3回とも受講した人が19名、さらにボランティアチームへ登録した人が9名となった。

登録者は、放課後児童クラブ等での交流活動に非常に意欲的であり、受入の市町村側も前向きだったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から実施しなかったことが、大変残念であった。ボランティアチームに登録した高校生が交流活動ができるよう、本事業について市町村への周知を強化する。

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

〔事業目的及び概要〕

青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組む方策の研究を目的として、高校生・大学生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、支援する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 団体募集(高校生や大学生、専門学校生等を主体とした団体)
- (2) 団体の指定

【社会参加活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	L e s t a (レスタ)	高校 大学	異年齢交流、小・中・高校生へのキャリア形成支援等	23名
2	キャリアサポートクラブコンソーシアム(キャリサポ連合)	大学	大学生とカタル！キャリア形成サポート事業へのボランティア参加、高校生及び大学生のキャリア形成支援	612名
3	学生団体 LINDEAL	高校	地域活性化を目的とし、探究活動の場を企画・開催、校外活動運営支援等	12名

【創作活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	確原色	高校	市内高校生を主体とした合同文化イベントの企画・発表	12名

(3) 団体支援

- ア 研修室等使用料の減免
- イ 運営会議・研修・作業等での教材開発室の使用承認
- ウ 発表の場の提供(生涯学習フェア等)
- エ 情報発信の専用掲示スペースの設置
- オ 所報「響」やHP等での活動状況の紹介
- カ 社会教育主事等による情報提供とアドバイス
- キ 地域活動団体、創作活動団体、教育活動団体等との連携に関する連絡調整
- ク 協力名義使用の承認(「協力 青森県総合社会教育センター」など)

〔成果と課題〕

青少年社会参加活動モデル団体3団体、青少年創作活動モデル団体1団体を指定した。主な団体支援として、研修室等使用料の減免や、社会教育主事等による情報提供とアドバイス、協力名義使用の承認等を行った。また、研究のため、各代表を参集し代表者会議を開催したほか、成果物や発表に対する一般市民及び主催者へのアンケート調査を行い、研究材料を蓄積した。調査から、現在行っている支援は各団体の活性化につながっていることが分かった。今年度も昨年度に引き続きコロナ禍にありながら、活動内容を工夫し、オンラインや掲示方式で実践発表するなど、昨年度の工夫を生かして積極的にチャレンジする姿が多々みられた。今後の課題として、支援可能な情報の発信を更に行い、モデル団体同士の横の繋がりを強化するミーティング等を開催するなど、各団体が持続的で活発な活動ができるよう支援を行う必要がある。

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

〔事業目的及び概要〕

新学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、その実現に向けて学校・家庭・地域が『チーム』として連携することを目的として、“未来の学校づくり・人づくり”に取り組む目的と重要性を共有し、具現化するための実践的な研修を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員等、市町村教育委員会職員
- (2) 場所：県総合社会教育センター
- (3) 受講者数：40名
- (4) 事業内容

11/25(木) 9:20～15:00

【説明】「県内のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の現状」

県総合社会教育センター職員

【講義】『社会に開かれた教育課程』の実現に向けて」

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動・本部が目指すもの～

講師 山口大学大学院教育学研究科 教授 霜川 正幸

【演習】「地域連携プログラムを構想する」

ナビゲーター 山口大学大学院教育学研究科 教授 霜川 正幸

〔成果と課題〕

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、山口大学と県総合社会教育センターをオンラインで結ぶ研修となった。

講義においては、山口県において実践している「やまぐち型地域連携教育」の取組を踏まえて、「学校・地域間に開かれた豊かな教育環境」が醸成されることにより、「地域の多様な人々との協働」「地域の人々との相互対話」「チャレンジしても安心な環境」が生まれ、児童生徒の学習・活動意欲が高まり、自身のキャリアデザインと進路選択につながっていく、社会に開かれた教育課程は子どものキャリア形成を促さなければならない、という骨子で、実際の様子をDVDの映像などを交えながら紹介していただいた。

演習では、学区内にある様々な教育資源を抽出し、教育課程に取り込んでいくための手法や・グループ協議の進め方を指導していただいた。

オンライン講座ということで、講義については対面式と遜色はなかったが、演習指導の部分では会場の様子が講師に伝わりにくい面もあり、次年度もオンライン導入となれば構成に工夫が必要となる。

受講者アンケートでは概ね高い評価であったことから、地域学校協働活動とコミュニティ・スクール

の一体的な推進を進めることが喫緊の課題となっている現状にあつて、受講者の理解を深める有意義な研修機会を提供することができた。

次年度については、「コミュニティ・スクール導入の成果は?」「熟議で情報共有されたことがどのように具現化されるのか。」「働き方改革との兼ね合いは?」といった具体的な要望もあったことから、これらの声に応えていく講座としたい。

あおもり家庭教育力向上事業 820千円

〔事業目的及び概要〕

地域における家庭教育支援体制を整備することを目的として、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催するとともに、そこで養成した人財を「あおもり親楽プログラム」を使う研修会等に派遣する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

ア 場所：県内2地区 東青地区(県総合社会教育センター)
三八地区(八戸市視聴覚センター・児童科学館)
※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため第4回はオンライン講座で実施。

イ 回数：東青地区6回、三八地区5回(新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため第3回は中止)

ウ 受講者数(1回以上の受講者数)：25名(東青地区13名、三八地区12名)

エ あおもり家庭教育アドバイザー登録者：15名(東青地区11名、三八地区4名)

エ 内容：家庭教育支援講座・演習(全6回：6～11月)

回	開催地区 開催日	内 容
1	東青地区 6/10(木)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
	三八地区 6/24(木)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
2	東青地区 7/7(水)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 青森県八戸児童相談所 こども相談第二課 課長 山田 憲子 演習 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員
	三八地区 7/14(水)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 青森県八戸児童相談所 こども相談第二課 課長 山田 憲子 演習 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員
3	東青地区 8/27(金)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 特定非営利法人子育て支援団体応援隊ココネットあおもり 代表理事 沼田 久美
	三八地区 8/24(火)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 特定非営利法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止
4	東青地区 9/16(木)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員

	三八地区 9/2(木)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 演習 「あおり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員
5	東青地区 10/24(日)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 青森中央短期大学 食物栄養学科 准教授 森山 洋美 演習 「あおり親楽プログラムⅢ」 進行 県総合社会教育センター職員
	三八地区 10/10(日)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 青森中央短期大学 食物栄養学科 准教授 森山 洋美 演習 「あおり親楽プログラムⅢ」 進行 県総合社会教育センター職員
6	東青地区 11/10(水)	演習 「あおり親楽プログラムⅣ」 進行 県総合社会教育センター職員
	三八地区 11/2(火)	演習 「あおり親楽プログラムⅣ」 進行 県総合社会教育センター職員

(2) あおり家庭教育アドバイザースキルアップ講座

ア 実施方法：あおり家庭教育アドバイザーを対象としたオンライン講座

イ 受講者数：11名

ウ 内容：今日的な家庭教育支援の現状について、講義・演習形式で学ぶ。

10/3(日)9:30～12:15

講義「味覚を育む食育活動の展開」

講師 柴田学園大学生生活創生学部 健康栄養学科 准教授 今村 麻里子

演習「あおり親楽プログラム」

進行役 あおり家庭教育アドバイザー 工藤 清子

(3) あおり親楽プログラム普及活動

「あおり親楽プログラム」を活用した研修会等に、あおり家庭教育アドバイザーを派遣する。

(4) あおり家庭教育アドバイザー登録情報の管理

(5) あおり家庭教育アドバイザーの活用

【成果と課題】

本事業は、今年度から3ヶ年かけ県内6地区で実施する。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、受講者、講師にとって、安心安全な講座運営を行った。県内の感染状況によって、運営方法を対面集合型から、オンラインやハイブリッド型に切り替えて実施した。講義では、講師にできるだけ受講者とのやりとりを含めた講義をお願いしたり、演習では、感染防止に努めながら、可能な限り受講者同士のグループワークを取り入れたことにより、受講者の学ぶ意欲に応えることができ、毎回のアンケートからは高い満足度を得ることができた。家庭教育支援チーム・子育て支援団体等参観は地域の活動を知るよい機会になり、今後受講者と地域の家庭教育支援者をつなぐ機会にもしたい。

本講座受講者のうち、あおり家庭教育アドバイザーへの登録申請可能な方は14名で、その全員から申請を受け、認定されたことは、家庭教育支援者として活動したいという意欲の表れと捉えている。

来年度は、上北・西北地区での実施となるが、これまでのように家庭教育支援者として活動したい方々に、各地で既に活動している支援者や市町村教育委員会関係者等と結びつけたり、サークル等の立ち上げをする際の支援をしたりすることを見据え、より実践的に地域の力となって活躍する人材育成を目指したい。

家庭教育支援動画制作普及事業 3,866千円

【事業目的及び概要】

県内における家庭教育の充実を図ることを目的として、子育てに対する不安や悩みに対する解決の糸口となる子育て情報を動画により発信する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 家庭教育支援動画の制作及びテレビ放映(動画は各5分、CMは15秒)
 家庭教育の重要性を広く普及するため、家庭や地域での様々な取組を紹介する。
 ア 「ねえ～ママ」「なあ～に？」 ～交流の大切さ～
 イ ユニバーサルデザイン(UD) ～わかるはできる！～
 ウ アンガーマネジメント ～怒りのコントロールと伝え方～
 エ 食卓の雰囲気プロデュースしよう ～孤食への工夫とコミュニケーション～
 オ 思春期のかかわり方 ～叱ること、マイナスな表現は逆効果？～
 カ 子どものSOSのサインに気づく親になろう ～頼ること・頼られることの大切さ～
 キ 「あおもり子育てネット」CM
- (2) 委託業者選定審査会の実施
 7/6(火) 9:30～12:00 県総合社会教育センター第2教材開発室にて、以下の委員により審査

	氏名	所属等
1	松浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 准教授
2	渡部 泰雄	青森県教育庁生涯学習課 課長
3	吉田 圭子	青森県子ども家庭支援センター(指定管理者 青森コミュニティビジネス株式会社) 部長
4	山子 泰典	青森県PTA連合会 会長
5	櫛引 志乃	あおもり家庭教育アドバイザー

(3) 家庭教育支援動画の配信

〔成果と課題〕

今年度の動画制作に当たっては、気軽に観てもらえること、視聴者に興味をもってもらえることをねらい、5分の動画を6本制作、15秒のCMを1本制作し、そのすべてをテレビ放映するとともに、動画投稿サイトへも掲載した。テレビの放映時期に応じ、県内の子育て世代の保護者等に対して「あおもり子育てネット」周知のためのチラシ・ポスターの配布時期を早めた。

番組モニターによるアンケートには「今後、子どもが悩みを抱えた時に対応の仕方に戸惑わないように覚えておきたいと思える番組内容で、参考になり、とても良かったです。」「TVを観たあと、家族で話し合う機会ができてとても良い時間を過ごすことができました。」等があり、今年度もとても有益な情報提供ができた。「この番組を観て、対処の仕方を具体的にアドバイス頂けたのできっそく実践してみたいと思います。」等の意見も多く、家庭教育に活かすことができる内容に構成することができた。

また、「5分間の番組は、1テーマごとなのでありがたいです。」という意見があった一方、「最後にいつもポイントでおさらいしてくれるのも有難いです。が、今回は情報量が多く一枚の画面では読み取れませんでした。二枚に分けてもっとしっかりポイントの説明をしてほしかった」といった声もあり、5分という短い時間の中で、どれだけ見やすく理解しやすい内容を提供できるかを工夫していく必要がある。

家庭教育相談事業 396千円

〔事業目的及び概要〕

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 対 象：乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族
 (2) 実施方法：電話相談・週3回 月・水・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00～16:00
 メール相談・24時間受付
 (3) 場 所：県総合社会教育センター電話相談室
 (4) 対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などの子どもに対する悩みや家庭教育全般について
 (5) 相談体制：家庭教育相談員及び県総合社会教育センター教育活動支援課職員が対応

(6) 相談件数：62件(電話相談43件、メール相談19件)

[成果と課題]

相談件数の総数は昨年度に比べ、増えている。今年度は、電話相談に比べてメール相談がだいぶ少なかったが、昨年度までは、メール相談もほぼ同数であった。メール相談は今後も電話相談と同様に主な方法となるも見込まれるため、その対応方法を学ぶ機会が必要がある。来年度以降も、悩みを抱えている方に本事業を展開していることがしっかりと届くよう周知を工夫する。

また、相談業務に当たる者の研修として、今年度はスクールカウンセラーの方を招いての講義を受け、今留意すべきことを学んだ。これにより相談業務に当たる者の資質向上とともに相談機関の連携強化ともなった。今後も、情報収集等に努め、より相談者の心情に寄り添える体制を整えていく。

県立図書館

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等に対して、幼児・児童・生徒用の図書セットを貸出する事業である。

[事業内容及び結果]

図書セットの内容		利用対象	前期		後期	
			配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 市町村 村内巡回図書 セット	(1)小学校	低学年	37	3,580	36	3,380
		中学年	36	3,320	36	3,340
		高学年	37	3,580	38	3,660
	(2)中学校	中学校	10	400	10	400
	(3)読み聞かせ 絵本児童書等	幼稚園・保育所等	46	6,600	40	5,430
	(4)大型絵本	幼稚園・保育所等	61	1,940	48	1,515
2	学習支援セット	小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等	19	932	7	299
3	ミニセット	市町村立図書館等(一部高等学校・特別支援学校を含む。)	23	659	24	706

[成果と課題]

学校や市町村立図書館等への支援を継続的に行うことができている。

学習支援セットについては概ね半分の図書を新しいものへ更新することができた。

引き続き新しい本を利用してもらえるように、毎年度一定数、図書セットの内容更新を進める必要がある。

県立図書館協力用図書緊急貸出事業 4,400千円

※令和2年度2月補正

[事業目的及び概要]

新型コロナウイルス感染症による児童・生徒の読書活動への影響が引き続き見込まれることから、子どもの居場所として開設される放課後児童クラブなどに参加する児童をはじめ、県内児童・生徒の読書週間の向上や学習支援に資するため、一括貸出用として県立図書館が所蔵する資料(協力用図書)を貸出する事業である。

[事業内容及び結果]

利用件数	利用冊数
19	1, 213

[成果と課題]

放課後児童クラブや特別支援学校等で利用され、コロナ禍における児童・生徒の読書活動を支援することができた。

県立梵珠少年自然の家

県立梵珠少年自然の家主催事業 1, 615 千円

(1) 看板事業

[事業目的及び概要]

年長児から中学生までの幅広い年代の「子ども」を対象に、豊かな自然環境の中で行う野営・野外炊事などの様々な自然体験活動を通して、基本的な生活習慣の確立や仲間と協力しようとする態度を育ていく事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
夏の7days キャンプ ～梵珠から西目屋へ 自転車と川下りで移動する 140km 真夏のチャレンジ!～	8/1(日)～ 8/7(土)	小学5年～ 中学3年 の児童生徒	20名 (延べ140名)	出会いのつどい、自転車隊列移動、テント泊、野外炊事、溪谷トレッキング、キャンプファイヤー、ラフティング体験、思い出クラフト、別れのつどい
年長すくすく キャンプ	8/28(土)～ 8/29(日)	年長児	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため 中止	
9歳チャレンジ キャンプ	9/18(土)～ 9/20(月)	小学3年～ 小学4年 の児童	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため 中止	
7歳ワンツース キャンプ	1/22(土)～ 1/23(日)	小学1年～ 小学2年 の児童	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため 中止	
冬の3days キャンプ	2/11(金)～ 2/13(日)	小学4年～ 中学2年 の児童生徒	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため 中止	

[成果と課題]

看板事業は、いわゆる「子ども事業」として、年長児から中学生までの一貫した年代を対象として計画した。近年、参加者及び保護者からの関心度は非常に高く、今年度も「夏の7days キャンプ」では、20名の応募に対して60名を超える応募があった。残念ながら今年度は、5事業のうち4事業が新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となったが、このような関心度の高さは、安心・安全に行うための綿密な事業実施計画、常に新しい企画を盛り込んだ事業内容、セミナーとして位置づけてきた大学生・高校生のボランティアスタッフの対応の良さなどが大きく影響しているということ、参加者や保護者のアンケート調査からも窺うことができた。

本来であれば、応募者全員を受け入れて事業を実施したいところであるが、施設の規模であるとか、職員のマンパワー不足であるとかが原因で、応募者全員を受け入れることができない現状が課題である。

(2) 養成事業

[事業目的及び概要]

当施設利用団体の引率者や高校生・大学生などを対象に、豊かな自然環境の中で行う活動プログラムや自然体験活動を安心・安全に実施するための研修やセミナー、講座等の開催を通して、自然体験活動の指導者及びボランティアを養成する事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
在学少年宿泊指導者 研修	(1回目) 4/20(火) (2回目) 7/27(火)	令和3年度利用 予定団体の引率 者	(1回目) 49名 (2回目) 38名	講義、説明、活動プログラム デモンストレーション、演習 ※宿泊体験あり(前日から希 望者のみ)
自然体験活動ぼんじゅ ボランティアセミナー 【必修】 (1)入門セミナー (2)ふりかえりセミナー (3)実践レポート 【選択】 (4)夏の7days キャンプ (5)年長すくすくキャン プ (6)9歳チャレンジキャン プ (7)7歳ワンツーカーキャン プ (8)冬の3days キャンプ	実施日は各 事業を参照 (1)5/22(土) (2)3/5(土)	高校生及び 大学生	(1)41名 (2)中止 (3)0名 (4)4名 (5)中止 (6)中止 (7)中止 (8)中止	各事業は実施期間に応じて 単位が付与されており、7単 位以上取得したものは「ぼん じゅマスターボランティア」、 10単位以上取得したものは 「指導補助員」としてそれぞ れ認定する。 【対象事業での活動内容】 ・管轄グループの活動支援グ ループメンバーの体調管理 及び安全管理 ・自主企画立案と運営 ・キャンプ等の野外活動にお ける、基本的な知識や技術 を習得するための研修や施 設ボランティアとしての連 携を深めるための実習。
指導者養成ぼんじゅ 出前講座	11月～3月 【各回即日】 ※間接指導 は随時受 け付ける	小・中学校、各種 学校、青少年教 育団体、幼児施 設等	985名	対象の団体が開催する各種 行事(事業)において、直接指 導又は間接指導を行う。 なお、派遣職員の旅費は無 料とし、活動材料費や用具運 搬費は団体の負担とする。

[成果と課題]

養成事業は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、「在学少年宿泊指導者研修」は一時期に一堂に会するのではなく、4月と7月に分散して実施することをあらかじめ計画し実施したことが、より安心・安全に実施することにつながる成果であったことを、参加者のアンケート調査からも窺うことができた。「ぼんじゅ出前講座」は、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響で利用申込数が例年よりも減少傾向となったが、より安心・安全に実施できるよう間接指導を推奨してきたことにより、コロナ禍で実施してきた昨年度よりも利用者数を増加することにつながられた。「自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー」は、実施できたのが「入門セミナー」と「夏の7days キャンプ」のみで他は全て中止となってしまったが、セミナーとして代替的な措置を講ずることができなかつたことが課題として挙げられる。

次年度も、感染防止対策により、事業によっては実施できない内容があるということを想定し、あらかじめ代替措置の準備を進めておくことが必要不可欠であると考えている。

(3) 親子事業

[事業目的及び概要]

小・中学生を含む保護者とその家族、いわゆる「親子」を対象に、豊かな自然環境の中で行う自然に親しむための体験活動や創作活動を通して、家族のふれあいや絆を深める機会を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期日	対象	参加者数	内容
春を楽しむサン day	4/29(木・祝)	小・中学生を含む保護者とその家族	83名 (28 家族)	野外活動「春の自然観察」、野外炊事「春のホットサンド」、創作活動「バードコール」
ファミリーキャンプ day	7/10(土) ※テント泊を希望した家族のみ 1泊2日 (~7/11)		258名 (61 家族)	体験ブース①～昼の部(野外炊事体験、創作体験、遊び体験) 体験ブース②～夜の部(ホテル観察、星空観察、たき火体験、暗闇ふれあいゲーム) ※テント泊希望の家族はテント設営・撤収、野外炊事を実施
自然体験ぼんじゅフェスタ	10/24(日)		173名 (40 家族)	ダッチオープン体験、ホットサンドメーカー体験、BBQコンロ体験、たき火・火起こし体験、本格リース作り体験、創作プログラム体験、昔の遊び体験、QRゲーム体験、館内食体験、セルフカフェ
冬をいろどるクラフト day	12/12(日)		139名 (41 家族)	クラフト①「ミニ門松作り」 クラフト②「森の羽子板作り」 クラフト③「本格クリスマスリース作り」 クラフト④「ミニクリスマスツリー作り」 ※その他、昼食提供やセルフカフェの開設あり
冬を楽しむホワイト day	2/23(水・祝)		新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止	

[成果と課題]

親子事業は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止とした「冬を楽しむホワイト day」以外は全て実施することができた。なお、不特定多数の参加を予定していたイベント系事業である「ファミリーキャンプ day」と「自然体験ぼんじゅフェスタ」については、感染症予防対策として事前予約をした家族限定という形で実施したところ、当日は密集・密接する場面なども極力抑えられ、安心・安全な実施につながられたことは成果であったと言える。

次年度も、コロナ禍により不特定多数のイベント系事業等は計画通りできないことを想定し、事前予約制や人数制限などの条件を設定しつつ、より満足度の高い事業として実施できるような企画や事業内容の精選をしていくことが必要不可欠であると考えます。

県立種差少年自然の家

種差少年自然の家主催事業(自然と遊ぼう、子どもの祭典) 1022 千円

[事業目的及び概要]

小・中学生が家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもを育てることを目的として、種差少年自然の家周辺の山野や海での自然体験活動や創作活動、キャンプ活動などを体験する学習機会の提供をする事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 自然と遊ぼう

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春を感じて」	5/16(日)	年 長 児 ・ 小・中学生 とその保護 者	96 名	春の自然を楽しもう ・潮風トレイルウォーク、創作活動 他
たねさしワールド 「エンジョイ！ 海遊び」①② ※2回開催	7/4(日)		151 名	海で思いっきり遊ぼう ・いかだやカヌー遊び、サンドクラフト作 り、磯遊び 他
	7/11(日)		230 名	
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/17(日)		108 名	秋の自然を楽しもう ・里山や海岸散策、創作活動 他
たねさしワールド 「冬の季節を感じ て」 ※2回開催	12/4(土)		52 名	創作リースを作ろう ・クリスマスリースづくり
	12/5(日)		62 名	
たねさしワールド 「エンジョイ！ 雪遊び」①② ※2回開催	コロナ中止	4 歳以上の 幼保・小・中 学生とその 保護者		冬の自然を楽しもう ・スノーチューブすべり、そりすべり、せ んべい焼き、たこ揚げ 他
	コロナ中止			
たねさしワールド 「こども大作戦」 ①② ※2回開催	コロナ中止	小学3年 ～4年		子どもだけでとまってみよう ・仲間づくり、レクリエーション、夜の森 探検、創作活動 他
		小学1年 ～2年		

(2) 子どもの祭典

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
おいでよ！ サマーキャンプA	7/28(水) ～29(木)	小学5年～ 中学3年	64 名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・キャンプファイヤー ・トーテムポールづくり 他
おいでよ！ サマーキャンプB	7/30(金) ～31(土)		78 名	
わくわくどきどき ウインターキャン プ	12/24(金) ～26(日)	小学5年～ 中学3年	69 名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・耐寒！10キロウォーク ・ボンファイヤー 他

〔成果と課題〕

自然と遊ぼうの事業は、親子、友達同士、家族同士が三陸復興公園の四季折々の豊かな自然の中で、春は「ビーチコーミング」「鳴き砂体験」、夏は「いかだ・カヌー遊び」「磯遊び」「サンドクラフト」、秋は自然物を利用した「小枝のドリームキャッチャー」の創作活動、里山での「冒険オリエンテーリング」、冬は葛のつるで作る「クリスマスリースづくり」などの活動プログラムを通して、親子の絆や仲間との交流を深めていた。どの事業にも、たくさんの応募者があり、抽選になることもあったので、次年度は人気のある事業は回数を増やすなどの対応をして多くの利用者に自然体験活動や創作活動をしてもらいたいと考えている。

子どもの祭典の事業は、「サマーキャンプ」を昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点と多くの参加者に宿泊体験活動をさせたいことから1泊2日で2回実施したところ、小学生から中学生まで幅広い異年齢集団での活動となった。「野外炊事」「キャンプファイヤー」「トーテムポールづくり」などのプログラムでは仲良く談笑したり、教え合ったり、励まし合ったりする姿が随所に見受けられ、社会性の基盤である「人との関わりの楽しさ」を肌で感じていた。「ウインターキャンプ」では、大寒波が襲来したため、健康安全面から外でのテント泊は回避したものの、予定の活動プログラムである「ケーキづくり」「耐寒！10キロウォーク」「ボンファイヤー」「思い出フォトスタンドづくり」の自然体験活動・創作活動は実施できた。とくに、「耐寒！10キロウォーク」では参加者はコマ

図を見ながら班単位での行動をしたため、グループごとの連帯感を強め、絆を深めたり、1人1個「携帯ガスコンロ」を持たせ自分専用のコンロで炊事をするることにより、キャンプでの炊事の喜びを味わせるとともに、自立心を養ったりすることができた。

自然体験活動支援事業 165千円

〔事業目的及び概要〕

学校や公民館、児童館、放課後児童クラブなどの身近な施設内外の活動場所で、子どもたちに自然体験活動やニュースポーツ活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の実地支援を行う。また、自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の指導者の資質能力の向上を目的として、小中学校及び少年団体指導者、市町村社会教育関係者等の指導職員を対象に行う研修事業である。

〔事業内容及び結果〕

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
自然体験活動出前講座	4・5月及び10～3月 *6～9月は原則として実施なし	三八、上北管内の小・中学校、児童館、公民館、放課後児童クラブ、青少年団体や成人団体等	89団体 4,659人	・種差少年自然の家のプログラムの中で出前対応可能なもの (せんべい焼き、ニュースポーツ、ミニ門松、フォトフレーム、どんぐりアート、昔遊び、しめ縄づくり 他)
自然体験活動研修会	5/29(土)～30(日)	幼・保・小・中学校教員、高校・大学生、児童館など関係機関の指導者、その他自然体験活動に興味のある方	62名	・レクリエーション全般 ・ネイチャーゲーム ・アドベンチャーゲーム ・「いかだ遊び、磯遊び」の救助訓練 ・野外炊事 ・AEDの操作法

〔成果と課題〕

自然体験活動出前講座は、9月と2月が新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から休館になったものの、保育園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、公民館、児童館、放課後児童クラブ、子ども会、市町村教育委員会、障害者地域生活支援センターなど多岐にわたり依頼があった。活動プログラムでは、「南部せんべい焼き」「ミニ門松づくり」「ニュースポーツ」などの要望が多く、利用者のアンケートには、「子どもの発達に合わせたプログラムの工夫ができる。」「南部せんべいの歴史も説明いただき有意義な時間を過ごすことができた。」など好評だった。来年度はSDGsの理念のもと「誰一人取り残さない」ためにも出前講座の利用促進につとめていきたい。

自然体験活動研修会は、宿泊学習や教育学習で入所する小・中学校の教職員を中心に、保育園職員、子ども会関係者、大学生、種差少年自然の家ボランティアの会員の参加を得て、1日目は「レクリエーション全般」「ネイチャーゲーム」「アドベンチャーゲーム」「野外炊事」を実施したが、参加者からのアンケートには、「学校や団体の子どもたちに実際に生かしていきたい。」「楽しく仲間関係づくりの手法を学んだ。」「五感を働かせて自然を観察する楽しさを子どもたちに伝えていきたい。」などがあり、自然体験活動についての知識や技術を十分に習得できた。2日目は、いかだ遊びにおける人命救助の仕方や津波を想定した避難の仕方など、いざという時の対処の仕方を学び有意義な研修となった。

在学少年宿泊指導者研修

〔事業目的及び概要〕

種差少年自然の家を利用する小・中学校及び特別支援学校の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

○期日：4/19(月)～20(火)

○場所：種差少年自然の家

○対象：令和3年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員 21名

[事業内容及び結果]

- 講義：社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方
- 実習：活動プログラムの実習(野外、自然、創作活動、夜の活動)、施設等の利用方法
- 演習：活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認事項

[成果と課題]

参加対象者は 65 名だったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から八戸市小学校校長会より八戸市内小学校(40 名)を見合わせるということになったこと、さらには学校事情による参加見合わせ(6 名)があり、21 名(日帰り参加含む)の参加となったものの、「社会教育施設として少年自然の家の役割と利用の仕方」「事前打ち合わせ等の書類の作成と変更点」(講義)や野外での自然体験活動(海での活動、ボンファイヤー、ナイトハイクなど)・創作活動などのプログラム実習に熱心にしかも意欲的に取り組んだり、海活動での避難場所と経路の確認などをしたりして、宿泊学習での引率者として子どもが安全に安心して指導できるための必要な知識や技能を学ぶことができ有意義な研修となった。

親子で学ぶ防災キャンプ事業 151 千円

[事業目的及び概要]

種差少年自然の家を避難所とし、避難場所の整備・運営を体験することによって、自然災害に遭遇したときにおける実践的な防災力を育むことを目的として、小・中学生とその家族及び小・中学校の教員を対象に行う研修事業である。

[事業内容及び結果]

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
「親子の絆」 防災キャンプ	10/30(土) ～31(日)	小・中学生と保護者、小・中学校の教員	13 組 82 名	親子キャンプで防災力、減災力を身に付けよう ・テント泊による避難所体験 ・講話「防災さんぽ」・非常時の炊事体験 ・AED講習 ・防災グッズ作り 他

[成果と課題]

9 月実施予定が休館のため 1 ヶ月遅れの開催となり、また、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から募集定員を 15 組 40 名としたが、13 組 32 名(実人数)の参加となった。昨年度のアンケートの中に、「親子でテント泊をしたい。」という要望が多かったので、ドームテント泊を基本にしなが、避難所生活を想定して、ブルーシートの簡易テントも準備した。実際ブルーシートの簡易テントを希望したのは 2 組と少なかったものの、泊まった参加者からは「不便さ、寒さを感じ、実際に被災したらどんな状況が待っているかを少し体験できたと思う。」という声があり、アウトドアから学ぶ避難所体験の事業のねらいが達成された。また、ファイヤースターター、一斗缶コンロ、ホットサンドメーカー等を使用して調理方法を工夫したり、家族一緒になって食事づくりをしたり、テントを設営したりして、災害時には、みんなで励まし合いや助け合って行動する大切さを学んだ防災キャンプとなった。

来年度もまた、参加者のニーズを取り入れたプログラムを計画し、親子キャンプの体験を通して防災力・減災力を身に付けさせていきたい。

(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成
- イ 次代の地域を担う若者の育成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援
- エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

県生涯学習課

「地域の思いをつなぐ」若者育成事業 3,551千円

【事業目的及び概要】

県内各地の若者が、これまで県教育委員会の事業等に参加し、県内各地で活躍する地域活動者の手法等を学び、若者がそれを手本として、自ら主体的に地域の良さを発信することにより、若者の自己有用感・地域愛を育み、県内定着の促進を図る仕組みを構築する。

【事業内容及び結果】

(1) 地域活動者と地域の若者によるワールドカフェの開催(県内6地区×2回)

- ・1回目(一人一人の思いを語り、広げる場【思いの拡散】)
- ・2回目(一人一人の思いをつなげる場【思いの集約】)

【開催日・場所】

地区	1回目	2回目
東青	6月27日(日) 県総合社会教育センター	7/25(日) 県立図書館
	参加者 大人18名 高校生6名	参加者 大人15名 高校生5名
西北	6月12日(土) 五所川原市民学習情報センター	7/17(土) 五所川原市民学習情報センター
	参加者 大人15名 高校生33名	参加者 大人11名 高校生17名
中南	6月13日(日) 弘前オランダ	7/18(日) 弘前市民会館
	参加者 大人17名 高校生9名	参加者 大人14名 高校生5名
上北	7月4日(日) 十和田市南コミュニティセンター	8/1(日) 十和田市南コミュニティセンター
	参加者 大人12名 高校生19名	参加者 大人18名 高校生7名
下北	7月3日(土) 下北文化会館	7/31(土) 下北文化会館
	参加者 大人19名 高校生5名	参加者 大人13名 高校生17名
三八	6月26日(土) 八戸市公民館	7/24(土) 八戸市公民館
	参加者 大人13名 高校生18名	参加者 大人11名 高校生9名

(2) 地域活動モデル団体による企画・実践

上記(1)でつながった地域の若者と地域活動者が、地域活動の企画及び実践を行う。

【実施方法】

- ・各モデル団体への委託により実施(県内11団体)

市町村	委託団体名	ねらい・活動
青森市	特定非営利活動法人日本人財発掘育成協会	高校生が異年齢交流をしながら、ショートムービーを制作する体験を通じて、地域の魅力を発信した。
青森市	青森街活サークル秘密結社	街歩きや地域イベントボランティアへの参画等を通して、地元地域にある「ヒト・モノ・コト」などの魅力を伝えた。
五所川原市	じゃわめき隊プロジェクト	海岸清掃などを通して、自分たちの住む地域について考え、YouTubeで発信した。
鶴田町	つるた街プロジェクト	高校生のやりたいという思いに応えるため、活動をする上で必要な知識を学び体験を行い、小学生の夏休み工作を支援するプランを作成した。
弘前市	特定非営利活動法人SEEDS NETWORK	弘前市在住の外国人との交流やワークショップを通して、地域の国際性について学んだ。

平川市	Asobo!Hirakawa	平川市を盛り上げるイベントの企画・運営活動を通して、自分たちが知らなかった地域の一面に触れ、地域に対する愛着を育んだ。
十和田市	Future Generations	IT 企業、医療、教育、農業、介護福祉等、各業界や各業種で活躍する地元の第一人者との交流会を行い、職業観を養い、地元への愛着を図った。
東通村	東通 YOUTH	ワークショップやふるさと PR 動画等を制作し、更なる地元理解及び地元愛を深めた。
むつ市	NPO法人 シェルフォレスト川内	高校生の目線でむつ市川内町の魅力を発見し、その魅力を発信するための展示会を開催した。
八戸市	市民集団まちぐみ	八戸を代表する食文化である「南部せんべい」について、若者から意見を聞きながら、新しいスイーツへアップデートすることで、地域の食文化を発見し、観光資源としての魅力を発信した。
三戸町	サンノヘエール	三戸町の魅力を再発見し、高校生の目線であらたな観光コンテンツの開発や地域イベントの機会を行った。

(3) 活動のフィードバック

他地区の取組事例を学び、次年度の活動に繋げるため、オンライン会議システムを活用した意見交換会を開催した。

[成果と課題]

県内6地区で開催したワールドカフェでは、話し合いを通して若者と地域活動者がそれぞれの地域に対する思いや課題について共有することができた。

地域活動の企画・実践では、11団体に委託をし、各団体がワークショップや動画制作、フィールドワーク等の活動を行うことで、地域への思いや愛着を深めることができた。

委託団体によっては、高校生の参加者が少ないところもあったため、団体の近隣高校に事業周知を図りながら、各団体と高校生を繋げるようにする。

また、各団体の活動については、高校生の主体性を尊重しながら、活動が展開されるよう。引き続き支援していく。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P8 (1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

若者の社会参加促進事業 1,011千円

[事業目的及び概要]

若者の社会参加を促進することを目的に、地域の青年組織、または新たに活動を始めようとする若者団体(以下、「若者団体等」)が企画立案する地域の課題等を踏まえたモデル事業を実施する事業である。また、ひきこもりやニート等の課題を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、就労体験や自然体験活動を実施する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 若者の社会参加促進事業プランの実践

若者団体等の地域活動への参加や若者同士関わり、地域のつながりを形成するモデル事業プランを実施した。

<研修会の開催> 【特定非営利活動法人日本人財発掘育成協会へ委託】

(三八地区)

第1回研修会

○期日：8/5(木) ○会場：三戸町アップルドーム ○参加者数：3名

○内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ方について

第2回研修会

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、9月に書面等で実施

○内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について
(西北地区)

第1回研修会

○期日：11/9(火) ○会場：五所川原市中央公民館 ○参加者数：3名

○内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ方について

第2回研修会

○期日：10/28(木) ○会場：ホテルサンルート五所川原 ○参加者数：2名

○内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について
両地区合同研修会「地域の元気づくりに挑む若者たちの集い」

○期日：1/9(日) ○会場：東奥日報新町ビル ○参加者数：39名

○内容：講話「地域の元気と人づくり・人つなぎ」 企画事業実践団体による実践事例発表、参加者全員による情報交換会

○講師：特定非営利活動法人日本人財発掘育成協会 理事長 坂本 徹

実践発表者：サンノヘエール 代表 五十嵐 淳、つ・な・がる 代表 江良 圭太

<企画事業の実践>

(三八地区)【サンノヘエールへ委託】

○期日：2/26(土) ○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンデマンドで実施

○内容：南部町を拠点とし、三戸町、南部町、田子町を巡る体験ツアーをオンデマンドで配信し、外部視点を活用した「長期滞在型ツアープラン」を構築するためのワークショップを開催する材料収集の機会とした。

(西北地区)【つ・な・がるへ委託】

○期日：2/26(土) ○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンラインで実施

○内容：「おらほの魅力どごだべな? オンライン つ・な・がるスクール」

県内の若者を対象に、西北地区を中心とした津軽地方の魅力をオンラインで発信するとともに、当該地域の若者同士のネットワークを構築する機会とした。

(2) 困難を抱える子ども・若者支援

不登校が続いている高校生やひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にあり、社会とのつながりへのきっかけを求めている16歳～概ね40歳の若者を対象に、自然体験・交流塾を種差少年自然の家及び梵珠少年自然の家等にて、それぞれ3回ずつ実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、それぞれの自然の家において第1回の実施となった。

<梵珠会場>

第1回自然体験・交流塾

○期日：6/26(土) ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：14名

○内容：野外炊事、創作活動 他

<種差会場>

第1回自然体験・交流塾

○期日：7/10(土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：21名

○内容：野外炊事、創作活動 他

<自然体験・交流塾協力団体等連絡会議>

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議(梵珠会場)

○期日：6/18(金) ○会場：ヒロロ3階 健康ホール ○参加者数：13名

○内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議(種差会場)

○期日：6/29(火) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：16名

○内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第2回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議

※両会場とも新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため書面開催とし、運営に関する意見を取りまとめた。

○内容：参加者の成長と成果、運営における成果や検討すべき課題等について

〔成果と課題〕

「若者の社会参加促進事業」では、若者団体等に対し、事業を企画し、実践するためのノウハウを学ぶ研修会の開催及び事業実践を支援する1団体と、実際に事業を実践する若者団体2団体の計3団体に委託し実践した。研修会、事業プランとも新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、当初の計画より大きく遅れることとなった。また、事業プランの実践は、オンラインで行わざるを得ない状況にある中、両若者団体とも自分たちの目的に沿った形で実現出来るように工夫して取り組んだ。その結果、企画力・実践力とともに社会参加に向けた意識が向上した。

今後も、若者団体等が事業を企画し、実践するためのノウハウや組織運営の在り方等について学ぶ機会を創出し、若者一人ひとりの課題解決能力の向上を図るとともに、持続的な組織運営が可能になるよう支援する必要がある。

「自然体験・交流塾」では、今年度新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、梵珠、種差両会場とも第1回の開催のみとなった。両会場とも、支援団体職員やボランティアが積極的に参加者とコミュニケーションをとったことにより、参加者との会話が弾み、終始明るい雰囲気の中活動を進めることができた。梵珠会場では支援団体からの参加者の他、県立高校からの参加者もあり、「自分は知らない人と話すのは得意ではないけど、このイベントに参加したおかげでいろいろな人と話す楽しさを知りました。」などの感想があった。種差会場では、小麦アレルギー対応の米粉を使った「せんべい焼き」を行ったところ、小麦アレルギーをもつ参加者から「このような行事で、初めてみんなと同じ食事ができてとても嬉しかったです。」という感想があった。参加者は、支援団体職員やボランティアと一緒に野外炊事や創作活動等の多様な体験活動を通して交流することにより、人と交流することの楽しさを味わう時間を過ごすことができた。本事業における体験活動は、参加者のコミュニケーション能力の向上を図る効果的な手段の一つでもあることから、今後も梵珠・種差両自然の家を活動の拠点とし、支援団体等と連携してコミュニケーションの向上を目的とした魅力あるプログラムを提供する必要がある。

県総合社会教育センター

パワフルAOMORI! 創造塾 898千円

〔事業目的及び概要〕

新たな地域活動者の発掘・育成を行うとともに、仲間づくりの促進やネットワークの形成・強化、地域活動の活性化を図り、地域コミュニティを牽引する人財を育成する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 講座内容

	期日	内容・講師等
第1回	7/17(土) 18(日)	「見つめる」 【講義・演習】「チームビルディング」 NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長 高橋 由和
第2回	8/21(土)	「深める」 【講義・演習】「地域活性化に必要な条件整備」 イカす大畑カダル団 代表 長岡 俊成 【事例発表】「パワフルAOMORI! 創造塾から得たもの」 第31期卒塾生 江良 圭太 第32期卒塾生 井上 陽菜子 【特別講義】「『選ばれる青森』へチャレンジ!」 青森県知事 三村 申吾 【演習】「実践活動の実施に向けての話し合い」 進行 社会教育センター職員
第3回	9/18(土)	「広げる」 【講義・演習】「企画・立案の基本」「広報『伝える力』」 ブラキオデザイン 代表 小野 康一郎
第4回	10/ 2(土)	「試みる」 【演習】「実践活動の実施に向けての話し合い」 進行 社会教育センター職員

第5回	11/ 6(土)	「固める」 【講義・演習】「実践活動の振り返り」 「アクションプランに向けたアイデア創発」 ものがたり法人 FireWorks 映画脚本家 栗山 宗大
第6回	12/ 4(土)	「繋げる」 【演習・発表会】「アクションプラン発表会」 講評 イカす大畑カダル団 代表 長岡 俊成

(2) 場所

県総合社会教育センター

(3) 参加者

塾生 20名 男性 9名 女性 11名 (20代 8名 30代 9名 40代 3名)

【成果と課題】

コロナ禍で感染症拡大防止対策を講じる必要があり、時間が限られている中でも、塾生同士がコミュニケーションを取り合い、ネットワークを形成できるような講座運営を心がけることで、内容を充実させることができた。20代～40代の幅広い年齢層、様々な職種、県内全域からの参加等により、塾生同士が互いに刺激し合い、連携が深まった。今年度の第33期から募集し始めた「卒塾生の学び直し」から1名参加者がいたことも今年度の塾生に良い影響を与えた。オンライン形式も取り入れたことにより、塾生のオンラインに対する理解が深まった。卒塾生に事例発表を依頼し、地域活動等を行っている様子を発表してもらった。塾生に良い影響を与えるとともに、卒塾生とのつながりを作ることができた。

「自分の想い」を深めたり、広げたりしながら実践活動に取り組み、卒塾後の「アクションプラン」を作成していく、という講座全体の流れは効果的であったが、塾生によりどうしても差が出てくる。その差を埋めるために、塾生の参加目的やニーズを把握しながら、フォローアップしていく方法について検討する必要がある。

地域の今と未来をつなぐ教育支援コーディネーター等研修 510千円

【事業目的及び概要】

学校・家庭・地域が連携・協働して地域の子どもを育むことを目的として、学校と地域住民・企業・NPO・各種団体等をつなぐコーディネーター等のスキルアップ及び人財の拡充を図るための研修を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 学校と地域・企業等をつなぐコーディネーターのスキルアップ研修の実施

ア 期日・場所：東青地区 6/17(木) 県総合社会教育センター

上北地区 6/18(金) 県立三沢航空科学館

イ 対象：教育支援活動推進員、地域学校協働活動推進員等(コーディネーター)、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員等

ウ 講師：認定NPO法人キーパーソン21 代表理事 朝山 あつこ

エ 参加者数：東青地区 17名 上北地区 24名(両地区オンライン参加者含む)

(2) 地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラムの開催

ア 期日：10/28(木)

イ 場所：県総合社会教育センター

ウ 対象：教育支援活動推進員、学校支援コーディネーター、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員等

エ 講師：株式会社リクルート リクルートE d - t e c h 総研 所長 山下 真司

オ 参加者数：会場 46名 オンライン 25名

(3) 「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営

ア 青森県教育支援プラットフォーム「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営

イ 新規登録事業所の登録手続き

ウ 学校からの依頼に対する仲介

【成果と課題】

学校と地域・企業をつなぐコーディネーターのスキルアップ研修は、両地区とも神奈川県と会場を繋ぐ、オンライン研修の形で実施した。(会場参加と、web 会議システム Zoom によるオンライン参加のハ

イブリッド研修会)。

講義では、「わくわくエンジン」というわくわくして、動き出さずにはいられない原動力のようなものをどうやってもてるようにするのか、なぜ子どもも大人もわくわくすることが必要なのか、などについて学んだ。子どもたちが自分の好きなこと、わくわくすることをじっくりと考え見つめることができるようなキャリア教育の必要性や、子どもも大人も一緒にわくわくすることの大切さについて、実感できる演習ができた。受講者からは、わくわくエンジンで元気づけたいなどの感想が寄せられ、参加者の今後の活動への意欲を高めることができた有意義な研修の機会となった。

地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラムは、講師とは神奈川県と会場を繋ぎ、スキルアップ研修と同様にオンライン研修の形で実施した。また、今年度も、毎年ロビーで行っている表彰企業によるポスターセッションは密を避けるため行わず、あおもりキャリア教育応援企業の表彰式、青森県企画政策部企画調整課による情報提供、基調講演の3部構成で行った。

受講者からは、教科の中でのキャリア教育的視点での取り組みが授業改善に役立てられる、学校教育は地域とともに歩んでいかなければならないなどの意見や感想が寄せられ、学校教育におけるキャリア教育推進について理解を深めることができた。

今後も、学校と地域・企業等をつなぐサポートができるように、各地区教育支援プラットフォーム実行委員会、各教育事務所、市町村教育委員会と連携を図り、情報を共有していくことが大切である。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 510千円

〔事業目的及び概要〕

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上のため、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人財育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る事業である。

〔事業内容及び結果〕★のある研修については、オンライン研修として実施

(1) 新任職員研修(全2回)

	実施日時	場所	内容・講師	受講者
前期	5/27(木) 10:00 ～13:00	県総合社会教育センター	講義・演習 「社会教育 きほんの『き』」 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英	22名
後期	10/12(火) 10:00 ～15:00		講義・演習 「生涯学習・社会教育関係職員の役割」 NPO法人日本人財発掘育成協会 理事長 坂本 徹	18名

(2) センター研修(全3回)

	実施日	場所	内容	受講者
第一回★	6/9(水) 10:00 ～15:00	県総合社会教育センター	事例発表 「オンライン講座の運営方法」 当センター教育活動支援課 職員 講義 「オンライン講座に必要な『権利の知識』について」 日本デジタルアーキビスト資格認定機構 理事 坂井 知志	20名
第二回	7/28(水) 10:00 ～15:00		事例発表 「青森県社会教育行政の取り組みとその成果について」 県生涯学習課職員・当センター職員 講義・演習 「『楽しい』講座を考える」 Mr. マサックこと 工藤 貴正	23名
第四回	11/17(水) 10:00 ～15:00		講義・演習 「地域づくり人財としての青少年と生涯学習・社会教育の役割について」 青森大学社会学部 教授 柏谷 至	14名

※第三回は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策に伴い中止

(3) 地区研修

	実施日	場所	内容	受講者
東青★	7/8(木) 13:00 ～16:00	県総合社会教育センター	講義・演習 「地域の事業計画と評価・改善」 秋田大学大学院 教授 原 義彦	17名
西北★	9/17(金) 13:30 ～16:00	関係市町村教育委員会 他	講義 「CS マイスターから学ぶ『地域とともにある学校づくり』～コミュニティ・スクールを中心に～」 文部科学省 総合教育政策局 CS マイスター 今泉 良正	16名
中南★	10/21(木) 10:30 ～14:30	関係市町村教育委員会 他	講義 「現代の若者を地域参画・地域への担い手へと結ぶ方策」 山形大学地域教育文化学部 教授 安藤 耕己	65名
上北★	5/21(金) 14:00 ～16:00	県総合社会教育センター	講義 「地域課題への青年層を中心とした実践的取り組み」～持続可能な地域社会を創るために NPO法人 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹	動画再生回数 80回
下北★	9/29(水) 13:30 ～15:00	関係市町村教育委員会 他	講義 「地域と学校の連携協働活動」 岐阜県大野郡白川村教育委員会 事務局 社会教育主事 新谷 さゆり	19名、 動画再生回数 50回
三八★	7/13(火) 13:30 ～16:00	南部町楽楽ホール	講義 「地域・社会への主体的な参画と地域活性化」 一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬 隆人	20名

(4) 社会教育主事等専門研修

	実施日	場所	内容	受講者
★	4/28(水) 10:00 ～12:30	県総合社会教育センター	講義 「未来を切り拓く社会教育士への期待」 独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター センター長 清國 祐二	31名

[成果と課題]

前年度の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、今年度は県外講師の招へいについては、オンラインツールを活用して行うこととしていたため、予定通り実施することができた。そのため、学びの流れを止めることなく、関係職員の研修を実施できたことは、大きな成果である。

内容についても、全ての研修において「役立つものだった」との回答が8割を越え、中には「次年度も引き続き、学びたい内容である。」との声もあることから、概ねねらいは達成されたものとする。

課題として、設定した研修内容に偏りがあった。社会教育行政の方針と重点を踏まえ、関係職員にとって実り多い研修テーマを設定する。

(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

- ア 高齢者や障害者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実
イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

県生涯学習課

特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業 586 千円

〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校(特別支援学校)の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

〔事業内容及び結果〕

学校名	期間	日数 (回数)	内 容	受講者数 (延数)
青森豊学校	6～7月	4日 (4回)	聴覚障害者への支援と手話講座	14名(52名)

〔成果と課題〕

特別支援学校が有する、より専門性の高い学校機能の開放を目的に特別支援学校のみで講座を開設している。受講者のアンケートでは、「丁寧に教えていただき、楽しく手話を学ぶことができた」「今後も手話を使って交流できるようにしたい」などの声が寄せられ、講座の満足度は高かった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、計画どおりに事業を実施できない学校もあった。今後は、実施方法について、各学校と相談・確認して進めていく必要がある。

障害者の生涯学習支援事業 1,014 千円

〔事業目的及び概要〕

自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団生活や趣味の講座、障害者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 社会参加学習

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
青森第二養護学校	3	8	51名	スポーツ体験、会報の発行
八戸盲学校	2	4	14名	障害者スポーツ体験(サウンドテーブルテニス、卓球バレー)、箏の演奏体験
むつ養護学校	4			卒業生交流会(書面による情報発信)、会報の発行
合計	延べ回数 9回 延べ時間 12時間 参加者数合計 65名			

(2) スポーツ体験交流

実施日	開催場所	参加者数	内容
7/4(日)	森田養護学校	14名	パラスポーツ教室(フライングディスク等)
7/25(日)	青森第一高等養護学校	25名	ボッチャ教室
11/27(土)	青森若葉養護学校	15名	ニュースポーツ教室
合計	開催回数 3回	参加者数合計 54名	

〔成果と課題〕

障害者の生涯学習支援事業は、卒業生が就労先での様子や卒業後の生活について近況を報告する場となっていることに加え、卒業生に就労や福祉、健康管理等の実生活に活用できる生きた情報を提供する場ともなっている。卒業生の卒業後のつながりや生きがい等を支える役割を担っているという点で、この事業は重要である。

スポーツ体験交流は、体を動かす機会が少ない卒業生にとって、主体的に運動することができるよい機会となっている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、計画どおりに事業を実施できない学校が多かった。今後は、実施方法について各学校と相談・確認しながら、事業を実施できるように進めていく必要がある。

県総合社会教育センター

元気青森人を創造するeラーニング推進事業 5,532千円

※令和2年度11月補正「新しい生活様式に対応した社会教育基盤整備事業」におけるインターネットによる学習教材配信拡充(4,545千円)を含む。

〔事業目的及び概要〕

(1) インターネットによるeラーニング学習教材の配信

ア 元気青森人 PowerUp コンテンツ	計 116 本	(アクセス件数：2,243 件)
(ア) 公開講座	8 本	
(イ) ワンポイントアドバイス	16 本	
(ウ) はたらく心	92 本	
イ あおもり学インターネット講座	計 21 本	(アクセス件数：4,038 件)
(ア) あおもりエトセトラ	6 本	
(イ) 青森県の先人	1 本	
(ウ) 青森県の山	7 本	
(エ) わがふるさと	7 本	
ウ あおもり子育てネット	計 83 本	(アクセス件数：18,074 件)
(ア) 子育て動画	40 本	
(イ) 子育て得情報	30 本	
(ウ) 学習コーナー	13 本	

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

(3) eラーニング学習教材の新規作成(新しい生活様式に対応した社会教育基盤整備事業) 6本

〔成果と課題〕

新しい生活様式に対応した社会教育基盤整備事業により、「あおもり学インターネット講座」に新たに6本の新規学習教材を追加した。また、ホームページのデザインを一新し、古い教材を整理した上で、主要配信形態をYouTubeへ移行した。

コロナ禍以降、継続してeラーニングへの需要が高まっているため、今後は、利用者の利便性や需要をより高めるため、サイトの統合を含めたホームページ改修や、定期的な新規コンテンツの開発を行っていく必要がある。

学習情報の収集・提供事業 7,140千円

〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習活動を促進するために必要とされる各種情報を収集し、インターネットにより県民へ提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理し、ICT講座等を実施できる環境を整備する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 学習情報の収集・提供

4 情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供

・登録データ件数	学習機会情報	1,830 件
	指導者人材情報	133 件
	団体・サークル情報	143 件
	視聴覚教材情報	6,142 件
	計	8,248 件

・ありすネットアクセス回数	学習機会情報	1,803 回
	指導者人材情報	555 回
	団体・サークル情報	611 回
	視聴覚教材情報	552 回
	計	3,521 回

・ありすネット検索回数	学習機会情報	969回
	指導者人材情報	141回
	団体・サークル情報	156回
	視聴覚教材情報	250回
	計	1,516回

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

学習情報提供に係るサーバ・パソコン機器及び実習用機器の整備

〔成果と課題〕

青森県学習情報提供システムの運用を終了し、学習情報提供サイト「ありすネット」として移行した。移行により、情報に関連するリンク先URLを可能な限り記載することにより、各ホームページやSNSへ利用者を誘導するような形へ変更した他、ホームページのデザインを一新し、スマートフォン表示へ対応した。また、指導者人材情報、団体・サークル情報に対して、更新調査を実施し、古い情報を整理した。

今後は、ありすネットの活用についての周知や、蓄積情報の充実などに加え、収集した情報を提供するだけでなく、有効に活用できるような方策を整えていくことが必要である。

青森県視聴覚ライブラリー運営事業 516千円

〔事業目的及び概要〕

16mmフィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともに、その活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 全国視聴覚教育連盟への加入
- (4) 視聴覚教材の購入 3本
- (5) 視聴覚教材のデジタル化業務 252本

〔成果と課題〕

フィルム劣化対策剤等を導入し、16mmフィルム保存環境の整備を行った。また、県が作成した資料を中心にした保管VHS教材のデジタル化を継続して行い、全体数の約半数までデジタル化が完了した。

今後は、他視聴覚ライブラリーの事例なども参考に、各教材の活用方法等について検討するほか、新規教材については、団体で利用可能な教材を優先して購入し、学校や社会教育団体へ向けて周知するなど、ライブラリーの積極的活用を推進することが必要である。

あおもり県民カレッジ運営業務

〔事業目的及び概要〕

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) あおもり県民カレッジの運営全般
 - ア 学生募集(ポスターやパンフレットの作成)
 - (ア) 各種講座・イベント・映画鑑賞会の開催時に募集
 - (イ) あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」による募集
 - イ 学生対応
 - (ア) 入学受付
 - (イ) あおもり県民カレッジ学生数 26,860名(新規1,695名)
 - ・教養学習コース 22,418名(新規1,662名)
 - ・子どもカレッジコース 4,442名(新規33名)
 - (ウ) 単位認定・評価サービス
 - ・認定証交付数(教養学習コース 287名、子どもカレッジコース 82名)
 - ・奨励賞交付数(教養学習コース 31名、子どもカレッジコース 38名)
- ※移行・退会の処理あり

ウ 学友会活動支援

エ あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化

(ア) 連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼
連携機関数：739 機関(体験施設 153 か所を含む)

(イ) 訪問による新規連携機関勧誘活動を実施

(ウ) 講座開催における協力などを通して、関係強化を推進

(2) 普及啓発事業

ア 子ども向けイベント「夏休み子どもイベント 2021」の開催 (8/1(日)実施)

(ア) 公開授業(社会・算数・理科)

(イ) 選択授業(オリジナルトートバッグ作り・土器土偶作り)

参加者：54 名

(ウ) 「Christmas ライブコンサート」の開催(12/25(土)実施)

生涯学習フェアの代替イベントとして、篠笛、J-POP カバー、フルート・ヴァイオリンデュオの演奏実施。

参加者：90 名、ボランティア:5 名

イ 県民カレッジ&生涯学習情報誌「てのひら」の制作発行(年 6 回)

ウ 映画鑑賞会開催(臨時休館月を除き毎月)

エ 生涯学習HPの作成

(ア) 指定管理者の生涯学習情報サイト作成<<https://www.manabi-aomori.com>>

(イ) 地域キャンパス講座、ボランティア自主講座等の情報掲載と更新

(3) 学習相談・学習情報提供事業

ア 学習相談の実施

窓口・電話・FAX・郵便・Eメールによる学習相談の受付

イ 学習機会情報の収集及び提供

(ア) 年間 2,000 件を目標に情報登録(1,792 件登録済)

(イ) 連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼

ウ メディア活用として「いきいき健やか事業」との連携によるテレビ番組内で講座情報や県民カレッジPRを放送。

エ 活動機会情報の収集及び提供

ボランティア相談に対し、受入れ団体の情報を収集、提供

(4) 学習機会提供事業

ア 地域キャンパス講座(県内 6 地区)開催

(ア) 開催数：東青 8 回、西北 8 回、中南 5 回、上北 2 回、下北 5 回、三八 5 回

(イ) 受講者数：延べ 889 名

イ 社会参加活動支援

(ア) ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催

講師登録数：118 名

講座：63 講座 受講者数：延べ 567 名

(イ) ボランティア活動証明書の発行

(ウ) 各種講座やイベントにおける運営ボランティアの活用

活動者数：延べ 45 名

[成果と課題]

カレッジ連携機関については、未加入の施設・団体に働きかけ 4 機関の新規加入を得た。新型コロナウイルス感染症の影響により、生涯学習フェアを開催できなかったが、高校生を含むボランティアの協力の基、夏は子ども向けイベントを、冬は「Christmas ライブコンサート」を開催し、参加者からは満足の声を聞くことができた。

コロナ禍がきっかけとなり、今後は各種講座を開催するに当たり、直接会場に出向くことなく、リモートで参加できるようオンライン環境を整えていく必要がある。また、カレッジ学生数は毎年増加しているが、入学から一定年数を過ぎた学生の継続意思確認を実施していないため、確認方法を検討する必要がある。

インフォメーションプラザありすの運営

【事業目的及び概要】

インフォメーションプラザありす(学習情報サービス室)は、生涯学習に関する総合窓口であり、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービスの業務を行う。

【事業内容及び結果】

- (1) 窓口対応時間 9:00～19:00
- (2) 視聴覚教材貸出サービス
- (3) ポスター、チラシ、図書等の配架
- (4) 学習成果の展示
 - ア みんなのギャラリー、ギャラリー「Sha-se」、画伯のたまごへの作品展示
 - イ 季節ごとの館内装飾と展示
- (5) コロナ禍において座席の配置や消毒作業の徹底

【成果と課題】

学習スペースの利用が定着し、特に学校の試験前などは多くの学生・生徒の姿が見られ、打ち合わせなどで利用できることも利用者には周知され、空き研修室を利用した自主学習室を含め、目的に合った利用状況が定着してきたところである。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、座席や机の数を減らしていることから、満席になることもあるが、引き続き、快適な学習環境の整備に努めることが、県総合社会教育センターの活性化に寄与するものと考えている。

県立図書館

近代文学館 特別展開催事業 2,046 千円

【事業目的及び概要】

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 特別展「北村小松生誕 120 年特別展」
 - 会期：7/10(土)～9/12(日)
 - ※9月1日から9月30日まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館としたことから、「北村小松生誕 120 年特別展」は8月31日で終了(当初の会期は7月10日から9月12日まで)。
 - 内容：八戸町(現・八戸市)出身の北村小松は、明治から昭和にかけて劇作家・映画脚本家・小説家として活躍した。日本初の本格的トーキー映画「マダムと女房」の原作脚本を手掛けたことはもとより、「空とぶ円ばん」等のSF作品を生み出した業績でも知られている。生誕 120 年という節目に当たり、遺品や直筆資料等を多数展示し、「モダンボーイ」と呼ばれた多才な作家の足跡と素顔に迫る展示を開催。
 - 展示資料数：185 点
 - 来場者数：1,327 名
- (2) 第 1 回文学講座
 - 日時：7/25(日)
 - 場所：県総合社会教育センター大研修室
 - 内容：講演 「祖父・北村小松の思い出」
 - 講師 北村 圭一(北村小松令孫)
 - 講演 「子どもたちを UFO に乗せた男 ～北村小松が描いた SF おとぎ話～」
 - 講師 井上 直哉(日本初期 SF 映像顕彰会代表)
 - 来場者数：18 名
- (3) 第 2 回文学講座
 - 日時：8/22(日)
 - 場所：県立図書館研修室
 - 内容：講演 「八戸が生んだモダンボーイ北村小松」
 - 講師 滝尻 善英(八戸ペンクラブ副会長)
 - 上映 北村小松旧蔵映像「尚武 神道無念流居合 北村益」

○来場者数：12名

(4) 日曜講座

9月1日から9月30日まで、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため臨時休館としたことから、日曜講座は中止(当初の日時は9月5日)。

[成果と課題]

これまで北村家遺族や関係者との人脈を築いてきたことにより、多くの資料や情報が集まり、展示資料点数180点を超える充実した内容の特別展を開催することができた。また、注目されることの少なかった戦後のSF方面の活躍に関する資料を展示することで、小松の新たな側面を紹介することができた。

新型コロナウイルス感染症の影響等により、観覧者数及び文学講座の参加者数が伸び悩む結果となったことから、今後は、若い世代を含めて多くの方に足を運んでいただけるよう、テーマ設定や展示構成、広報の面で工夫を重ねる必要がある。

近代文学館 企画展開催事業 788千円

[事業目的及び概要]

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

企画展「中南津軽文学散歩」

○会期：10/16(土)～12/19(日)

○内容：青森県の南西部は、弘前市、黒石市、平川市、西目屋村、藤崎町、大鰐町及び田舎館村の三市二町二村で構成され、中南津軽地域と呼ばれている。明治以降に中南津軽地域(旧・浪岡町を含む)を描いた文学作品を紹介しながら、近代文学から見たこの地域の持つ魅力に迫る展示を開催。

○展示資料総数：100点

○来場者数：1,323名

[成果と課題]

企画展「中南津軽文学散歩」は、観覧者に中南津軽地域の文学に関する理解を深めてもらうため、作家の直筆原稿や書、色紙等を展示し、文学に詳しくない方も興味を持ってもらえるような説明パネルを作成した。その結果、観覧者アンケートでは満足・やや満足の評価が9割以上を占めた。日曜講座では、中南津軽地域を訪れた県外作家のエピソードを紹介し、作品を通して地域の魅力を伝えることができた。

新型コロナウイルス感染症の影響等により、全体的に観覧者数が伸びなかったことから、今後は、魅力的な展示テーマを考案するとともに、イベントの開催方法について工夫が必要である。

アウトリーチサービス推進事業 428千円

[事業目的及び概要]

来館による図書館利用が困難な重度心身障害者や要介護高齢者等に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

○登録者数：19名(うち新規登録者数2名)

○貸出：件数82件/冊数457点

[成果と課題]

県立図書館に直接来館することが難しい障害者や高齢者等に対して、サービスを提供することができた。課題としては、利用者が希望する資料が本館にない場合の対応が難しいことがあげられる。

(4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

県生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業(生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会) 1,048千円

〔事業目的及び概要〕

生涯学習振興法(生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律)の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備していくため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の総合的な推進に関する重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

〔事業内容及び結果〕

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

(2) 青森県生涯学習審議会

第15期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(R2/10/19～R4/10/18)

○諮問：「青森県における新しい時代の生涯学習・社会教育の推進の在り方について」

○審議テーマ：「多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進について」

○会議等の概要

第3回審議会 9/24(金) 重点審議事項1について(アンケート調査の分析・意見交換)

先進事例実地調査 11～12月

(訪問による調査)

- ・NPO法人日本人材発掘育成協会(青森市) 11/11(木)
- ・八戸あおば高等学院(八戸市) 11/16(火)
- ・八戸市立大館公民館(八戸市) 11/25(木)
- ・青森市中央市民センター(青森市) 11/26(金)
- ・十和田市役所(十和田市) 11/30(火)
- ・弘前市立中央公民館(弘前市) 12/3(金)
- ・一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと(青森市) 12/7(火)

(オンラインによる調査)

- ・那覇市若狭公民館(沖縄県) 11/17(火)
- ・あしたの寺子屋(北海道) 11/22(月)
- ・認定NPO法人カタリバ(東京都) 11/29(月)

第4回審議会 1/14(金) 先進事例実地調査の結果報告・分析、重点審議事項1に係る答申骨子案(構成、方向性)について意見交換

第5回審議会 2/21(月) 重点審議事項1に係る答申骨子案(構成、方向性)について

〔成果と課題〕

多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進について先進事例実地調査を行い、その結果に基づいて「青森県における新しい時代の生涯学習・社会教育の推進の在り方等について、議論を深めることができた。これを踏まえ、今後は引き続き答申の成案について審議いただき、答申を提出する予定である。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業 1,164千円

【事業目的及び概要】

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育支援体制に関する調査を行う。

【事業内容及び結果】

学習活動に関する県民の意識や行動について、一般県民3,000人を対象に調査を行った。

○調査テーマ：「生涯学習に関する県民の意識調査」

○調査対象：一般県民3,000人

○有効回答：843人(28.1%)

○顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、調査研究顧問を委嘱した。

青森大学社会学部 教授 柏谷 至

弘前大学教育学部 准教授 越村 康英

○報告書：120部を印刷し、関係機関へ配付した。

【成果と課題】

県民の学習活動の割合は、6年前の前回調査や類似調査と比較して下がっていることや、学習活動の阻害要因として、上位に「時間的なゆとり」に関する要因が挙げられていることが分かった。WebやSNSの活用では、情報収集手段としての活用は進んでいるが、学習機会としての活用や今後の活用希望は少なく課題であることも分かった。

今後は、調査研究の成果を生涯学習関連施策・事業に生かしていく。

青森県社会教育委員の運営 530千円

【事業目的及び概要】

本県の社会教育推進体制の充実を図ることを目的として、社会教育法第17条に基づき青森県社会教育委員を設置し、本県社会教育の現状と振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行うことを目的として会議を運営する事業である。

【事業内容及び結果】

第35期青森県社会教育委員の会議

○委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務

○任期：2年(R2/10/19～R4/10/18)

○調査研究テーマ：「地域全体で子どもを育む家庭教育支援の在り方について」

○会議等の概要

第3回会議 6/7(月) 総合調査研究の結果報告、実地調査の候補先について

実地調査 7～8月

(訪問による調査)

・みらいねっと弘前(弘前市) 7/8(木)

・ファザーリング・ジャパン青森(平川市) 7/8(木)

・子どもネットワーク・すてっぷ(五所川原市) 7/12(月)

・ふたご・みつごのひろば「ついんくる」(青森市) 7/17(土)

・つがる市家庭教育支援チーム「つがる絆プロジェクト」(つがる市) 7/22(木・祝)

・はちのへ未来ネット(八戸市) 8/10(火)

・おいらせ町家庭教育支援チーム「しるくはあと」(おいらせ町) 8/10(火)

・子育てオーダーメイド・サポートこもも(青森市) 8/12(木)

(オンラインによる調査)

・むつ下北子育て支援ネットワークひろば(むつ市) 7/20(火)

・父親ネットワーク北海道(北海道) 8/17(火)

・君津市小糸公民館「小糸公民館プレイルーム」(千葉県) 8/18(水)

第4回会議 10/11(月) 実地調査の結果報告・分析、答申骨子案(構成、方向性)について

第5回会議 11/24(水) 答申骨子案について

【成果と課題】

本県社会教育の振興方策に資するため、県内外の家庭教育・子育て支援団体及び施設を対象に、課題や特色のある取組、今後の展望等について、訪問またはオンラインによる実地調査を行った。

今後は、調査研究テーマについてさらに協議し、答申の成案を作成する予定である。

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成 265 千円**〔事業目的及び概要〕**

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 市町村の社会教育行政調査
- (2) 市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査
- (3) 「令和3年度青森県の社会教育行政」の作成配付(600部作成)

〔成果と課題〕

県及び市町村における社会教育事業の概要・実績、社会教育行政の現状等について取りまとめ、社会教育行政関係者に広く周知した。

社会教育主事有資格者育成派遣事業 527 千円**〔事業目的及び概要〕**

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- 派遣研修：社会教育主事講習(弘前大学)
- 研修期間：7/13(火)～8/6(金)
- 派遣者数：中学校教員2名、県教育委員会主任指導主事1名及び指導主事5名

〔成果と課題〕

東青・三八地区の中学校教員、東青教育事務所の主任指導主事、県教育委員会(中南・上北・三八教育事務所、総合社会教育センター・教育庁生涯学習課)の指導主事が社会教育主事講習を修了し、社会教育主事有資格者となった。社会教育主事を増やすことで、今後さらなる社会教育体制の充実を図っていく。

生涯学習専門講座派遣事業 184 千円**〔事業目的及び概要〕**

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 社会教育主事専門講座(オンライン開催)
受講者なし
 - (2) 地域教育力を高めるボランティアセミナー(オンライン開催)
受講者なし
- ※(1)、(2)ともに国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催

〔成果と課題〕

令和3年度は受講者がなかったが、今後も専門的教育職員育成のため、引き続き中央研修への派遣を実施し、最新の知見が得られるよう努める。

社会教育主事等一般研修 159 千円**〔事業目的及び概要〕**

県社会教育関係職員が一堂に会し、県の社会教育行政の方針と重点について研修と情報交換を行い、職務遂行能力のスキルアップを図る。

〔事業内容及び結果〕

- 研修会の開催：第1回 5/24 県総合社会教育センター
- 第2回 11/ 4 県総合社会教育センター
- 第3回 2/28 オンライン開催

〔成果と課題〕

討議や情報交換、講師による講義等を通じて、施策の方向性や取り組むべき重要課題、これからの社会教育の在り方と、それを担う職員に求められる資質等について学び、職員間で共通理解が図られた。

在学青少年育成費補助事業 359 千円

〔事業目的及び概要〕

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

主に東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師として県内高校に派遣する講演会事業を6校で予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、すべての講演会が中止となった。

〔成果と課題〕

今年度はすべての講演会が中止となったが、本県にゆかりのある著名な講師による、職業観や人生観、命の大切さ、新しい分野に挑戦し続ける姿勢の大切さなどをテーマとする講演は、高校生にとって、これから直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくための多くの示唆を与える機会となっており、今後も引き続き助成を継続していく必要がある。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P8 (1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

県総合社会教育センター

ボランティア関係機関職員養成講座 106 千円

〔事業目的及び概要〕

ボランティア関係者、実践活動者等の資質向上を目的として、本県の社会参加活動の推進及び充実に向けた対話・参加型のディスカッションを開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

「ボランティアを取り巻く現状と今後の展望」をテーマとした講座の実施

- (1) 期 日：11/13(土) 10:00~12:30
- (2) 講 師：全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 興 柁 寛
- (3) 開催方法：講師は、全国体験活動ボランティア活動総合推進センターよりオンライン講義を実施。オンラインまたは会場(県総合社会教育センター)にて受講。
- (4) 受講者数：オンライン受講28名、会場受講4名、計32名

〔成果と課題〕

受講時の様子やアンケート等から、十分にねらいが達成された研修となった。会場とオンラインを選択できる受講形態は、アンケート内容から「若い方々のボランティアに対する意識の一片が分かり参考になった。」「年上の人とのディベートを通して自分の考えや価値観を深めることができたのでよかった。」等、参加者の個々のニーズに応じることができたため有効だと考える。講座内容も考慮しながら、今後の講座運営に取り入れていきたい。今回の講座で興柁先生の講義から、様々な新しい価値観を得ることができた。また、多世代、学生と社会人による意見交流の場を設けることによって、新しい気付きがあった。引き続き、多世代、学生と社会人による意見交流の場を設けるような講座にしていきたい。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(再掲)

(P22 (2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成に掲載)

県立図書館

県立図書館資料整備 62,471 千円

〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的として、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 受入資料数 (R3/4/1～R4/3/31)

区分	受入資料数
県立図書館(本館)	16,506 冊
市町村等協力用	6,560 冊
近代文学館	1,795 冊
合計	24,861 冊

(2) 図書館利用状況 (R3/4/1～R4/3/31)

図書館利用者数	164,807 名	
近代文学館利用者数	29,991 名	
年間利用資料数	一般閲覧室	107,883 冊
	児童閲覧室	36,596 冊
	オンライン貸出	6,728 冊
	新聞未合冊等	4,873 冊
	アウトリーチ(全体の内数)	(457 冊)
	市町村一括(協力)貸出等	43,656 冊
	計	199,736 冊
年間登録者数	新規登録者数	1,946 名
	総登録者数	17,250 名

※アウトリーチサービス：
身障者等への配本サービス。

※それぞれの登録者数には、
アウトリーチ登録者数を含む。

(3) 市町村立図書館等への貸出の状況 (R3/4/1～R4/3/31)

相互貸借(県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	3,726 冊
	県外公共図書館等	500 冊
	計	4,226 冊
団体一括貸出		29,240 冊
集団読書用図書		100 冊

電子図書館システム導入事業 15,400 千円

※令和2年度2月補正

[事業目的及び概要]

県立図書館における非接触・非来館サービスの充実のため、県民が自宅等にいながら電子書籍を閲覧することができる電子図書館システムを導入する。

[事業内容及び結果]

電子書籍を閲覧することができる電子図書館システムを導入し、利用者が電子書籍を閲覧できる体制を整備した。

[成果と課題]

電子書籍の利用促進を図るとともに、利用者のニーズを見極め、適切に電子書籍の購入を進める。

図書館地区別研修事業 726 千円

[事業目的及び概要]

図書館における司書等の力量を高めることを目的として、図書館法(昭和25年法律第118号)第7条の規定に基づき、情報化の進展など図書館に関する最新のテーマや地域における課題等について研修を実施する事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) 期間 10/20(水)～10/22(金) 3日間
- (2) 場所 県立図書館(オンライン(ZOOM)とのハイブリッド方式)
- (3) 対象 北日本図書館関係職員(勤務経験が概ね3年以上の司書等)

(4) 内容等

内容	研修テーマ	講師
基調講演	コロナ時代の図書館経営	京都橋大学文学部 教授 嶋田 学
講義①	図書館における電子書籍の現状と将来像－調査に基づく with/after コロナの課題－	専修大学文学部 教授 植村 八潮
講義②	脳科学の視点から考える子どもの読書活動	東京大学大学院総合文化研究科 教授 酒井 邦嘉
講義③	読書バリアフリー法と図書館の障害者サービス	埼玉県立久喜図書館 主任専門員 佐藤 聖一
講義④	ネットワーク時代のレファレンスサービス	明治大学文学部 教授 齋藤 泰則
講義⑤	災害と図書館－災害への備え、災害時における図書館の役割について－	宮城県名取市図書館 司書 加藤 孔敬
講義⑥・演習	新しい生活様式と図書館施設	愛知工業大学工学部 教授 中井 孝幸
参加者 110名		

[成果と課題]

新型コロナウイルス感染症対策により、ほぼすべての講義をオンラインで実施した。そのため、特に県外参加者は移動に要する時間や経費の負担が減り、業務の都合に合わせて希望する講義のみ参加するなど、受講しやすい環境を整えることができた。

一方、インターネット環境やカメラ・マイク等オンライン会議システムに使用する機器類の整備が進んでいない館もあり、演習での意見交換をチャットで行う等不便を感じる部分があったほか、参加者が業務のため、講義の途中で席を立つ姿も見受けられたため、館内においても集中して受講できる環境を整えてもらうことが課題である。

市町村立図書館等職員研修事業	249千円
-----------------------	--------------

[事業目的及び概要]

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を図ることを目的として、市町村立図書館等職員研修を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために青森県立図書館事業等担当者会議を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 図書館相互協力事業等担当者会議

ア 開催日	5/19(水)
イ 場所	オンライン(Zoom)
ウ 参加者	市町村立図書館等職員 33名
エ 内容	県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明、情報交換会

(2) 初任者研修

ア 開催日	6/9(水)～6/10(木)
イ 場所	オンライン(Zoom)
ウ 対象	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	1日目：市町村立図書館等職員 32名、学校図書館業務担当職員 6名 2日目：市町村立図書館等職員 30名、学校図書館業務担当職員 4名

オ 内容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 1日目：「関係法規、公共図書館・学校図書館の現状と課題」 2日目：「資料管理、グループワーク」
------	--

(3) 基本研修

ア 開催日	7/14(水)
イ 場所	オンライン(Zoom)
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員 45名、学校図書館業務担当職員 6名、その他 4名
オ 内容	テーマ「図書館サービスと著作権」
カ 講師	公益社団法人日本図書館協会 著作権委員会委員長、 調布市立図書館 主幹 小池 信彦

(4) 学校図書館支援研修

ア 開催日	9/15(水)
イ 場所	オンライン(Zoom)
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員 25名、学校図書館業務担当職員 15名、その他 9名
オ 内容	テーマ「探究的な学びを支える学校図書館」
カ 講師	放送大学 客員教授 堀川 照代

[成果と課題]

図書館相互協力事業等担当者会議では、県立図書館が実施している市町村立図書館等への支援事業の活用の促進と、県立図書館と各市町村立図書館等及び各市町村立図書館等間の連携が図られた。

初任者研修では、新たに図書館に勤務することとなった市町村職員等が、図書館の理念やサービスについて理解し、各館での円滑な日常業務の遂行に寄与した。

基本研修では、図書館職員の資質向上のために特に重要なテーマを取り上げて実施していくことで、図書館職員に必要である継続的な研修受講の機会を設定することができた。

学校図書館支援研修では、学校図書館と公共図書館等の連携や学校図書館支援について考える契機とすることにより、学校図書館の利用促進と市町村立図書館等のサービス充実に繋がった。

Webによるオンライン研修の実施については受講者の環境も整いつつあり、オンライン会議システムを活用したグループワークを取り入れるなど、回を重ねるごとにITスキル及び研修内容が充実している。